

# デジタルトランスフォーメーション

## 授業の目的・概要

大規模な集客を実現する方法やより多くの収益をあげる方法、業務を効率化する方法など、デジタル技術  
をビジネスに活用する方法を考えられるようになる。多くの顧客を集客できるような Web ページを構築で  
きるようになる。あらゆるビジネスを「逆算」で捉えられるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	井田 洋佑
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

## 目標

- DX の根幹となる逆算の考え方をを用いて、様々な企業のケースを説明することができる。
- DX がビジネス改革だということを、具体的な例を挙げながら説明することができる。
- ホームページとソーシャルメディアを活用し、潜在顧客に自社製品を認知してもらうための情報発信ができるようになる。
- 商品を遠くに早くたくさん売ることができる EC プラットフォームを活用するメリットについて理解を深められるようになる。
- 取引から在庫管理・売上管理を一元化できる POS レジアプリを活用するメリットについて理解を深められるようになる。
- 十分な顧客獲得に必要なセッション数の目標を逆算して設定し、達成するための Web ページを制作することができる。

## 授業計画

### 前期

第 1 回 オリエンテーション、現代ビジネスのキーワード「DX」とは何か

「デジタルトランスフォーメーション」という言葉の意味と、登場した背景を知る。

身近に触れることもある Netflix、Spotify、Airbnb、Uber、メルカリなどのサービスを例に、DX と呼ばれる代表的な取り組みとその意義について知る。

第 2 回

なぜ DX が重要かーニューノーマルとデジタルディスラプションー

新型コロナウイルスの流行前後でどのように社会の在り方が変わったか、

それにより私たちの社会生活はどういった変化を強いられてきたかを取り上げるとともに、

コロナウイルス流行後のニューノーマル時代でデジタル技術が果たす役割を知る。

またデジタル技術のをうまく活用できないことで市場を追われるリスクがあることを理解する。

第 3 回

逆算の思考法：バックカスティング／フォアカスティング

プロジェクトの進め方として、現在を起点にする考えと未来を起点にする考えの二つがあり、

フォアカスティングは短期的な、バックカスティングは長期的な課題解決に

それぞれ適していることを理解する。

その上で、DX においては理想を描いた上で適切なデジタルツールを選択できる

バックカスティングの方が適していることを理解する。

第 4 回

DX のよくある失敗

金融系システムの統合や紙媒体とハイブリットになった行政のオンライン申請を例に、

長期的なゴールを明確にできず、目先の課題にとらわれたり

形式だけのデジタル技術導入を目指してしまうことで DX が失敗に陥ることを理解する。

第 5 回

売上を上げるための DX：技術の開発と活用の違い

第 1 回で取り上げたようなドラスティックな変革を振り返り、

全く新しいシステムを生み出し業界を先導できる存在は一握りであることを理解する。

一方で、メディア発信、EC サイト参画、セルフレジ導入のように

既存のツールを適切に選択・導入し業務を効率化させることによって

小規模な企業組織であっても DX に成功できる事例があることを知る。

第 6 回

オウンドメディアの役割と特性：オムロン／キーエンス／サイボウズ

オムロン／キーエンス／サイボウズを例に、オウンドメディアの使い方として、

分かりやすく自社製品の特長を打ち出し購入への動線を強化する切り口と

多くの人の興味を喚起するコンテンツを契機に間接的に自社の認知を増やす切り口とがありその目的の違いによってどのように HP の設計やデザインが変わるかを理解する。

第 7 回 HP 制作ツールとアナリティクスについて

Google Site、ペライチ、WordPress を例に、コーディングせずに HP 制作ができるツールのそれぞれの特色と具体的な機能について知る。

第 8 回 グループワーク：HP 制作①（NJ サイトコラム）

第 9 回 グループワーク：HP 制作②（NJ サイトコラム）

NEXTJAPAN サービスが外国人留学生から認知をより幅広く得られるためにはどの HP 制作ツールを使ってどういった内容を発信したらよいか、グループで議論し実際にページを制作する

第 10 回 フィードバック：数値解析

第 7 回～第 9 回の成果物に対してアナリティクスツールで解析を行い、

どういった結果が得られるかをクラスで共有するとともに、

そこからどういった課題が見えるか、それを解決するにはどういった打ち手があるか議論する。

第 11 回 セッション数増加のための取り組み

第 10 回で分析した結果をもとに、HP のセッション数を増やすために考えられる取り組みについて議論し、実際に改善を行う

第 12 回 フィードバック：効果検証

第 11 回で行った改善対応に関して実際に効果が表れているかの確認を行う。

第 13 回 コンバージョン率上昇のための取り組み

第 10 回で分析した結果をもとに、HP のコンバージョン率を増やすために考えられる取り組みについて議論し、実際に改善を行う

第 14 回 フィードバック：効果検証

第 13 回で行った改善対応に関して実際に効果が表れているかの確認を行う。

第 15 回 HP 制作まとめ

第 8 回～第 14 回の内容をもとに、集客できる Web ページの制作に必要な要素を理解する。

第 16 回 試験

第 17 回 再試験

後期

第 1 回 前期の復習、逆算の思考法

第 3 回を中心に、第 1 回～第 5 回の内容を再度振り返り、定着度をチェックする。

第 2 回 E コマース：既存 EC サイトの活用

実店舗と EC サイト、またモール型 EC サイトと自社サイト型 EC サイトについて、それぞれを比較し互いのメリットデメリットについて理解する。

また小規模な企業組織にとっては既存モールの知名度や集客力を活かせるという意味でモール型 EC サイトを用いるメリットが大きいことを理解する。

第 3 回 グループワーク：EC サイト活用事例調査

第 4 回 グループワーク：EC サイト活用事例調査

第 5 回 グループワーク：EC サイト活用事例発表

実際にモール型 EC サイトを活用して売上向上に成功した企業の事例をグループで調べそれぞれの企業がどの特徴に注目してそのサイトを選定し、結果としてどういった課題をカバーすることに成功したかを軸に発表を行う。

第 6 回 ケースワーク：EC サイトの活用による改善提案

第 7 回 ケースワーク：EC サイトの活用による改善提案

第 8 回 ケースワーク：EC サイトの活用による改善提案発表

モール型 EC サイトを活用することで売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスをグループで見つけ、具体的にどんなサイトを用いて業務を改善するかを発表する。

第 9 回 E コマース 発表フィードバック・復習

第 10 回 POS システム：顧客情報の分析

第 11 回 POS レジアプリ デモンストレーション

全サービス無料の「Air レジ」を用い、

一般的に POS レジアプリにどのような機能が備わっているかを理解する。

第 1 2 回 POS データを活用するための分析手法

サンプルデータを用意し、スプレッドシートを用いて

ABC 分析、トレンド分析、バスケット分析、RFM 分析のシミュレーションを行う。

第 1 3 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案

第 1 4 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案

第 1 5 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案

第 1 6 回 ケースワーク：POS レジアプリの活用による改善提案発表

POS レジアプリを活用することで売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスをグループで見つけ、具体的にどういった運用を行えば業務を改善できるかを発表する。

第 1 7 回 POS システム 発表フィードバック・復習

第 1 8 回 試験

第 1 9 回 再試験

授業の方法

講義、ケーススタディ、グループワーク

教材

自作教材を使用する

- ・ Twitter, LINE, Instagram, Tiktok
- ・ ペライチ / Google site / WordPress
- ・ モール(amazon, 楽天), ショッピングカート ASP, CMS パッケージ
- ・ Air レジ

<参考書>

岡嶋裕史『プログラミング教育はいらない GAFa で求められる力とは?』 (光文社、2019)

岡嶋裕史『実況! ビジネス力養成講義 プログラミング/システム』 (日本経済新聞出版、2022)

小川卓『「やりたいこと」からバツと引ける Google アナリティクス 4 設定・分析のすべてがわかる本』

2024 年度

(ソーテック社、2022)

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

#### 授業外での学習方法

1. 日々のニュースを見て、企業の DX への取り組みについて情報を集めること。
2. 就職活動の一環として、志望する企業のホームページ等を見て、DX への取り組みを調べること。

#### 実務経験と授業科目の関係

# 経営学・プロジェクトマネジメント

## 授業の目的・概要

大目標を複数のプロジェクトにブレイクダウンし、期日を決めて目標設定できる

科	DX ビジネス科	教員	西田 智
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

## 目標

### 前期

- ・ 経営学を学ぶ意義を説明できる。
- ・ 経営戦略の種類を理解し、効率化の観点から戦略の提案ができる。
- ・ 経営管理の視点を加味して、経営戦略案の提案ができる。

### 後期

- ・ リスクについて理解し、リスク分析ができる。
- ・ 様々な視点からプロジェクトの現状を説明することができる。
- ・ テーマに沿ったプロジェクトを企画し、目標の設定・実施要領の作成・役割分担表の作成ができる
- ・ 目標を達成するための適切な業務設定を行い、実行することが出来る

## 授業計画

### 前期

- 第 1 回 授業の目的、本講義の全体像
- 第 2 回 経営学とは何か
- 第 3 回 企業とは何か

- 第4回 経営戦略（概要、種類）
- 第5回 現在求められている経営戦略（環境戦略・サステナビリティ戦略）
- 第6回 現在求められている経営戦略（システム・DX戦略）
- 第7回 学校の営業戦略提案（グループワーク）
- 第8回 学校の営業戦略提案（グループワーク）
- 第9回 学校の営業戦略発表（グループワーク）
- 第10回 発表へのフィードバック

※評価基準：内容⇒様々な視点から考えられているか

その他⇒意見をまとめる際多数決のみやなんとなくで決めていないか

発表時に意見の寄せ集めになっていないか

- 第11回 経営管理（ヒト・モノ）
- 第12回 経営管理（予算）
- 第13回 経営管理（SDGs）
- 第14回 第9回で発表した戦略の修正、フィードバック・前期の復習
- 第15回 試験
- 第16回 試験返却・フィードバック
- 第17回 再試験

#### 後期

- 第1回 前期の復習、後期授業の目標・全体像
- 第2回 プロジェクト事例紹介
- 第3回 リスク分析手法
- 第4回 リスク分析（グループワーク：具体例から実際にリスク分析を行う）
- 第5回 リスク分析結果発表
- 第6回 プロジェクト管理方法
- 第7回 プロジェクト計画（ゴールの設定・やらないことの決定・制約条件）
- 第8回 プロジェクト計画（Todo リストの作成・スケジュールの作成・全体を見る）



- 第 9 回 プロジェクト計画（リスク管理、トラブル対応）
- 第 10 回 トラブル事例紹介、対処法・改善策議論（グループワーク）
- 第 11 回 対処法・改善策発表
- 第 12 回 プロジェクト設定（テーマ：1 年後の企業説明会の開催など）  
設定したプロジェクトの実施要領・役割分担表の作成（グループワーク）  
※役割分担表は、クラス全体を当てはめて作成
- 第 13 回 設定したプロジェクトの実施要領・役割分担表の作成（グループワーク）
- 第 14 回 設定したプロジェクトの実施要領・役割分担表の作成（グループワーク）
- 第 15 回 作成した実施要領・役割分担表の発表・フィードバック
- 第 16 回 実施要領・役割分担表へのフィードバック（担任から）  
評価基準：内容⇒プロジェクト実施に向けて業務をブレイクダウンできているか  
様々な観点からタスクの整理を行うことができているか  
各業務の期日を設定できているか
- 第 17 回 試験
- 第 18 回 試験返却・フィードバック
- 第 19 回 再試験

#### 授業の方法

講義・グループワーク

#### 教材

教科書：特になし

参考資料：

- ・「童話でわかるプロジェクトマネジメント」（内容未確認、わかりやすさの点で評価の高い書籍）

[童話でわかるプロジェクトマネジメント \(bizfighters.com\)](http://bizfighters.com)

- ・「経営管理 (有斐閣アルマ)」（塩次 喜代明 (著), 小林 敏男 (著), 高橋 伸夫 (著)）

[経営管理 \(有斐閣アルマ\) | 喜代明, 塩次, 敏男, 小林, 伸夫, 高橋 | 本 | 通販 | Amazon](#)

- ・「経営戦略入門」（網倉 久永 (著), 新宅 純二郎 (著)）

2024 年度

[経営戦略入門 | 網倉 久永, 新宅 純二郎 | 本 | 通販 | Amazon](#)

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

#### 授業外での学習方法

#### 実務経験と授業科目の関係

# 情報社会学・情報倫理

## 授業の目的・概要

- (1)法的なリスクを回避しつつ訴求力を最大限に高めたコンテンツの作成をおこなうことができる
- (2)顧客に対して、個人情報を経済的かつ適切に収集することが出来る

科	DX ビジネス科	教員	大島 静流
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

## 目標

### 前期

1. 情報社会における犯罪や危険性について例を挙げ、解決策を考えることができる
2. SNS 等における炎上や匿名性について説明し、その対策を考えることができる
3. 情報の出典元を確認し、信憑性の高い情報を収集することができる
4. 収集した情報をわかりやすく伝えることができる

### 後期

5. 知的財産や個人情報について、法に触れる事柄を理解し、法に触れない対応策を考えることができる
6. これまでの授業内容を踏まえ、法的なリスクを回避しつつ訴求力を最大限に高めたコンテンツを作成できる

## 授業計画

### 前期

- 第 1 回 オリエンテーション、本授業の目的・目標・年間予定伝達
- 第 2 回 ユーザ ID、パスワード
- 第 3 回 情報セキュリティポリシー
- 第 4 回 情報とメディア

第 5 回 電子掲示板、SNS

第 6 回 情報化進展による犯罪やその危険性、具体例紹介

(サイバー犯罪の種類と種類ごとの事例)

第 7 回 グループワーク：上記具体例の解決法の発表

(特に、技術面以外での対策を議論させる⇒ソーシャルエンジニアリング)

第 8 回 炎上の段階と炎上原因について

※段階：発生、拡散、報道

※原因：不適切な発言、サイト・広告の倫理的問題、

社内外からの問題リークと告発、利用客側の問題

第 9 回 グループワーク：炎上への対策発表

班ごとにテーマを変えて、炎上の原因と対策を議論

(炎上事例参考：<https://sakujo.or.jp/netenjyou-kigyou/#toc17>)

第 10 回 グループワーク：炎上への対策発表

第 11 回 インターネットの匿名性、情報の信憑性

第 12 回 「自分の好きな料理」をテーマにプレゼン資料の作成

(ルール：料理の起源を調査し、必ずプレゼンに盛り込む)

第 13 回 グループワーク：プレゼン資料の作成

第 14 回 グループワーク：プレゼン資料を用いて発表

第 15 回 前期試験

第 16 回 試験返却、フィードバック

第 17 回 再試験

後期

第 1 回 情報発信の方法、注意点

第 2 回 知的財産（特許権、商標権）

第 3 回 知的財産（意匠権、著作権）

第 4 回 個人情報の保護

第 5 回 グループワーク：個人情報保護法に違反した例を紹介し対策を議論

事例参考：[pd\\_hiyari.pdf \(ppc.go.jp\)](https://pd-hiyari.pdf(ppc.go.jp))

第 6 回 グループワーク：上記の違反部分、解決法の発表

第 7 回 情報システムの種類（基幹系、情報系）、グループワーク：情報システムについて具体例を調査  
（具体例⇒ATM、SNS、チケット予約システムなど、IT が関連すればなんでも対象内）

第 8 回 グループワーク：情報システムについて具体例を発表

第 9 回 情報システム障害回避対策

第 10 回 グループワーク：自身の学校をテーマとした SNS 文章・ネット記事の作成

第 11 回 グループワーク：自身の学校をテーマとした SNS 文章・ネット記事、実際に投稿

第 12 回 グループワーク：投稿結果分析・改善策考案

第 13 回 グループワーク：投稿内容・結果分析・改善策の発表

第 14 回 グループワーク：投稿内容・結果分析・改善策の発表

第 15 回 振り返り

第 16 回 振り返り

第 17 回 後期試験

第 18 回 試験返却、フィードバック

第 19 回 再試験

#### 授業の方法

講義、グループワーク

#### 教材

・教師用資料：『情報 I』

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm)

・『情報社会と情報倫理 改訂版』（梅本 吉彦（著））

[情報社会と情報倫理 改訂版 | 吉彦, 梅本 | 本 | 通販 | Amazon](#)

・『図解即戦力 SNS 担当者の実務と知識がこれ 1 冊でしっかりわかる教科書』（野村総合研究所データ

2024 年度

サイエンスラボ 広瀬 安彦 (著))

[図解即戦力 SNS 担当者の実務と知識がこれ 1 冊でしっかりわかる教科書 | 野村総合研究所データサ](#)

[イエンスラボ 広瀬 安彦 | 本 | 通販 | Amazon](#)

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

#### 授業外での学習方法

日常生活においても情報倫理で学んだことを意識して行動する

#### 実務経験と授業科目の関係

# サイバーセキュリティ

## 授業の目的・概要

- 情報セキュリティリスクを排除したデータ運用ができる
- 情報セキュリティに関して、IT パスポート試験に合格できる知識を身に着ける。

科	DX ビジネス科	教員	青島 弘和
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	98

## 目標

- 情報セキュリティの目的とその種類を説明することができる
- 情報資産への脅威・脆弱性について説明することができる。
- サイバー攻撃の手法とその対策について説明することができる。
- セキュリティ技術とその種類について説明することができる。
- リスクアセスメントを行い、リスクへの対応を提案することができる。
- マルウェアの種類と説明することができる。
- マルウェア対策の種類について説明することができる
- 情報セキュリティに関する法規の種類とその内容について説明することができる。

## 授業計画

### 前期

- 第 1 回 授業の目的、本講義の全体像、情報セキュリティの概要
- 第 2 回 情報セキュリティの目的、機密性・完全性・可用性
- 第 3 回 情報資産、脅威、脆弱性
- 第 4 回 脅威の種類（物理的脅威、技術的脅威、人的脅威）

第 5 回 脆弱性の種類（物理的脆弱性、技術的脆弱性、人的脆弱性）

第 6 回 問題演習

第 7 回 サイバー攻撃方法（不正アクセス）、

ブルートフォース攻撃、辞書攻撃、パスワードリスト攻撃と各攻撃への対策

第 8 回 盗聴、盗聴の種類（スニファ、電波傍受、キーボードロギング）とその対策

第 9 回 なりすまし

なりすましの種類（パスワードリスト攻撃、フィッシング、MITB・MITM）とその対策

第 10 回 問題演習

第 11 回 DoS 攻撃・DDoS 攻撃とその対策

第 12 回 ソーシャルエンジニアリング（ショルダーハッキング、スキャビンジング、会話）とその対策

第 13 回 クロスサイトスクリプティング、クロスサイトリクエストフォージェリ、SQL インジェクション  
とその対策

第 14 回 標的型攻撃（メール、水飲み場型攻撃、やり取り型攻撃）、ゼロデイ攻撃とその対策

第 15 回 問題演習

第 16 回 セキュリティの概要（組織的・人的な取り組み、セキュリティ技術）

セキュリティ技術の種類（暗号化、認証、マルウェア対策、フィルタリング）

第 17 回 暗号化、復号、共通鍵暗号方式

第 18 回 公開鍵暗号方式、共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違い

第 19 回 問題演習

第 20 回 認証の概要、パスワード認証、ワンタイムパスワード

第 21 回 バイオメトリクス認証（指紋、虹彩、声紋、静脈パターン）

第 22 回 デジタル署名、PKI

第 23 回 問題演習

第 24 回 リスク、リスクの要素、リスクマネジメントの流れ

第 25 回 リスクの特定と分析

第 26 回 リスクの評価、受容水準

第 27 回 リスク対応（回避、低減、移転、保有）



第 28 回 情報資産・脅威・脆弱性の復習、問題演習

第 29 回 サイバー攻撃方法の復習、問題演習

第 30 回 セキュリティ対策の復習、問題演習

第 31 回 リスクに関する復習、問題演習

第 32 回 試験

第 33 回 試験返却、フィードバック

第 34 回 再試験

#### 後期

第 1 回 前期の学習内容確認、後期の授業概要説明

第 2 回 マルウェアの分類（ウイルス、ワーム、トロイの木馬）と  
機能（自己伝染機能、潜伏機能、発病機能）

第 3 回 マルウェアの種類（スパイウェア、ランサムウェア、ボット）

第 4 回 マルウェア対策（予防：ウイルス対策ソフト、ビヘイビア法、検疫ネットワーク）

第 5 回 マルウェア対策（感染後対応、端末管理）

第 6 回 問題演習

第 7 回 不正アクセス対策（ファイアウォール、WAF、プロキシサーバ）

第 8 回 不正アクセス対策（DMZ、IDS）

第 9 回 情報漏洩対策（リモートアクセスと認証サーバ）

第 10 回 アクセス管理（SSL/TLS）

第 11 回 アクセス管理（VPN とその種類）

第 12 回 問題演習

第 13 回 物理的対策（火災：防火壁、スプリンクラー、消火器、地震：バックアップサイト、データの遠隔保管、危機管理計画の作成、落雷・停電：予備電源、避雷針）

第 14 回 物理的対策（機器の故障：冗長化・ライフサイクル管理、過失によるデータ破壊：バックアップ、フルプルーフ）

第 15 回 問題演習

- 第 16 回 人的対策（内部不正の防止、システム運用の管理）
- 第 17 回 人的対策（入室管理・アンチパスバック、セキュリティ教育）
- 第 18 回 情報セキュリティポリシーの種類（基本方針、対策基準、実施手順）
- 第 19 回 情報セキュリティマネジメントシステムと国際基準・国内基準
- 第 20 回 問題演習
- 第 21 回 個人情報保護法、プライバシーマーク制度
- 第 22 回 知的財産権：著作権とその種類（著作人格権、著作財産権、著作隣接権）
- 第 23 回 知的財産権：特許権、意匠権、実用新案権、商標権
- 第 24 回 知的財産権の事例紹介
- 第 25 回 不正アクセス禁止法、事例紹介
- 第 26 回 サイバーセキュリティ基本法、事例紹介
- 第 27 回 問題演習
- 第 28 回 問題演習
- 第 29 回 問題演習
- 第 30 回 マルウェアの復習、問題演習
- 第 31 回 不正アクセス対策の復習、問題演習
- 第 32 回 人的対策・物理的対策の復習、問題演習
- 第 33 回 人的対策・物理的対策の復習②、問題演習
- 第 34 回 法規に関する復習、問題演習
- 第 35 回 法規に関する復習②、問題演習
- 第 36 回 試験
- 第 37 回 試験返却、フィードバック
- 第 38 回 再試験

授業の方法

講義、問題演習

教材

2024 年度

生徒用教科書

- ・ 情報セキュリティマネジメント合格教本 令和 04 年（岡嶋裕史）

教師用参考資料

- ・ 図解入門よくわかる最新情報セキュリティの技術と対策（若狭直道）

評価の方法

試験 80%、授業態度 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

授業外での学習方法

[IT パスポート過去問道場 | IT パスポート試験ドットコム \(itpassportsiken.com\)](http://itpassportsiken.com)

[基本情報技術者過去問道場 | 基本情報技術者試験.com \(fe-siken.com\)](http://fe-siken.com)

※試験の過去問演習を行い、知識の定着を図る

実務経験と授業科目の関係

複数のシステム開発企業にて、プログラミングを経験。

# アルゴリズム・データ構造 I

## 授業の目的・概要

アプリケーション開発・運用・利用をマネジメント・評価する上で基礎となる、アルゴリズムの考え方を身につける。

科	DX ビジネス科	教員	赤星 和磨
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

## 目標

### 前期

アルゴリズムの基礎となる、「変数」と「配列」のデータ構造を理解できる。

流れ図/疑似言語の読み取りができる。

流れ図を用いて、記号が 10 個程度のアルゴリズムを記述できる。

### 後期

基礎的な探索アルゴリズム/整列アルゴリズムを理解できる。

流れ図を用いて、記号が 15 個程度のアルゴリズムを記述できる。

IT パスポート「アルゴリズムとプログラミング」分野の既習範囲において、8 割の正答率を達成できる。

## 授業計画

### 前期

第 1 週 オリエンテーション

第 2 週 アルゴリズムとプログラムの関係

アルゴリズムとは？プログラムとは？

第 3 週 コンピュータ基礎知識

2024 年度

第4週	良いアルゴリズムとは 分かりやすい/高速/効率的/再利用が容易
第5週	アルゴリズムの基本形 制御構造
第6週	流れ図と疑似言語 それぞれの書き方
第7週	変数(データ型/代入) メモリ/変数の宣言
第8週	配列(参照) データをまとめて使う方法
第9週	三角形の面積を計算する 四則演算
第10週	データの大小を判定する データを比較する/関係演算子
第11週	変数のデータを入れ替える 入替用の変数
第12週	フローチャート読み取り演習 定着度の確認
第13週	合計を計算する 反復構造/変数の初期化/変数 i/無限ループ
第14週	最大値を探す 暫定値の変数
第15週	前期期末試験
第16週	前期期末試験返却・フィードバック
第17週	前期再試験
後期	

第 1 週	探索アルゴリズム(二分探索法/概要) アルゴリズムの内容を理解する
第 2 週	探索アルゴリズム(二分探索法/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 3 週	探索アルゴリズム(ハッシュ探索法/概要) アルゴリズムの内容を理解する/同じハッシュ値が出たときの対応
第 4 週	探索アルゴリズム(ハッシュ探索法/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 5 週	整列アルゴリズム(単純選択法/概要) アルゴリズムの内容を理解する
第 6 週	整列アルゴリズム(単純選択法/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 7 週	整列アルゴリズム(単純交換法/概要) アルゴリズムの内容を理解する
第 8 週	整列アルゴリズム(単純交換法/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 9 週	整列アルゴリズム(単純挿入法/概要) アルゴリズムの内容を理解する
第 10 週	整列アルゴリズム(単純挿入法/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 11 週	整列アルゴリズム(クイックソート/概要) アルゴリズムの内容を理解する
第 12 週	整列アルゴリズム(クイックソート/実装) アルゴリズムをフローチャート/疑似言語で表現できる
第 13 週	IT パスポート対策補足講義① 10 進数、2 進数、16 進数
第 14 週	IT パスポート対策補足講義②

2024 年度

集合とベン図/データの単位

第15週 IT パスポート計算問題演習

第16週 IT パスポートプログラミング問題演習

第17週 後期期末試験

第18週 後期期末試験返却・フィードバック

第19回 後期再試験

授業の方法

講義、問題演習

教材

伊東静香(2012)『アルゴリズムを、はじめよう』インプレス

栢木厚(2023)『令和06年 イメージ&クレバー方式でよくわかる かやのき先生のITパスポート教室』技術評論社

評価の方法

試験・レポート 80%、授業態度 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

授業外での学習方法

ITパスポート過去問道場(<https://www.itpassportsiken.com/ipkakomon.php>)

実務経験と授業科目の関係

# プログラミング I

## 授業の目的・概要

アプリケーションの開発・運用・利用をマネジメント・評価するために、プログラミング言語「Java™」の基礎的な文法と考え方を理解し、簡単なプログラムを作成し実行できるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	伊賀崎 俊朗
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	98

## 目標

### 前期

1. Java により書かれたプログラムが実行されるまでの流れを理解できる。
2. 基本的なコンピュータ上の計算を、Java を用いて記述できる。
3. 配列・メソッドを利用して、冗長なソースコードを整理できる。
4. オブジェクト指向を理解し、クラス図を用いてクラスを記述できる。
5. クラスとインスタンスの関係について、実世界の例を用いて説明できる。
6. 参照の考え方を理解し、実世界の例を用いて説明できる。

### 後期

7. 「is-a の関係」に則り、継承の適切性を判断できる。
8. オブジェクト指向に基づき、抽象的な概念をソースコードで表現できる。
9. オブジェクト指向に基づき、悪意の有無を問わない不正なアクセスを制御できる。
10. 正規表現を用いて、文字列の的確な条件を指定できる。
11. コレクションの特性を理解し、状況に応じて適切なコレクションフレームワークを判断できる。
12. 起こりうる例外を想定し、try-catch 文を用いて未然に防止できる。
13. Java SE 11 Programmer I の既習範囲について、8 割以上得点できる。



授業計画	
前期	
第 1 週	オリエンテーション サンプルプログラムの作成・実行/開発の流れ
第 2 週	プログラムの基本構造 ブロック/クラス名/インデント/コメント
第 3 週	変数/データ型 変数宣言の文/変数の名前/基本データ型/変数の初期化/定数
第 4 週	評価/算術演算子・代入演算子 計算の文/優先順位/結合規則/算術演算子/文字列結合演算子/代入演算子 インクリメント/デクリメント
第 5 週	型の変換・条件式と論理演算子 型の変換/命令実行/制御構造/条件式/論理演算子
第 6 週	選択構造/反復構造 If/while
第 7 週	配列/ for 文 配列のメリット/書き方/配列 for 文/拡張 for 文
第 8 週	配列とメモリ・null・多次元配列 ガベージコレクション/NullPointerException/
第 1 9 週	メソッド メソッドとは/引数/戻り値/オーバーロード
第 1 0 週	メソッドと配列・コマンドライン 配列の活用/コマンドライン引数
第 1 1 週	JDK の導入・ローカル開発環境の構築/複数クラスを用いた開発・パッケージと FQCN 授業用 PC への JDK インストール 複数クラスのコンパイル/コマンドプロンプトを使用した実行/パッケージの利用
第 1 2 週	クラスローダー/名前空間・API

クラスパスの指定/パッケージを使うメリット/パッケージ名の衝突防止/API リファレンス

第 1 3 週 オブジェクト指向

オブジェクト指向の目的・定義/手続き型プログラミングとの違い/オブジェクトと責務

第 1 4 週 クラスとインスタンス/クラス型変数

クラスの定義/インスタンスの利用/メモリ内でのクラス型変数の挙動

第 1 5 週 参照と引数/has-a の関係/コンストラクタとオーバーロード

インスタンスの独立性/フィールドでのクラス型変数の利用/作業の自動化

第 1 6 週 前期期末試験・フィードバック

第 1 7 週 前期期末再試験

後期

第 1 週 継承

同じような内容のクラス開発

第 2 週 オーバーライド・継承の禁止

子クラスにおけるメソッドの再定義

第 3 週 継承とインスタンス・コンストラクタ

インスタンスの仕組み/内部インスタンスの呼び出し

第 4 週 正しい継承・誤った継承

is-a の関係/汎化・特化の関係

第 5 週 抽象クラス

詳細未定のメソッドの宣言/意図しないインスタンス化の回避

第 6 週 インタフェース

多重継承が認められる理由

第 7 週 問題演習①

第 8 週 多態性

曖昧なイメージ/抽象クラス型変数の利用/曖昧な型へのインスタンスの代入/

instanceof 演算子

第 9 週 カプセル化

アクセス制御/getter/setter

第 10 週 Object クラス・文字列表現/等値と等価/静的メンバ

暗黙の継承/toString()のオーバーライド/equals()のオーバーライド/ static とは

第 11 週 API リファレンスと使用例

文字列操作/不変と可変

第 12 週 正規表現

正規表現/プレースホルダ

第 13 週 Time API

Date 型/Calendar クラス/ java.time パッケージ

第 14 週 コレクション

List/ Set/Map

第 15 週 問題演習②

第 16 週 エラーと例外処理/try-catch 構文

エラーの種類/解決方法

try-catch-finally 文/ try-with-resources 文/スロー宣言/意図的な例外発生

第 17 週 Java SE 11 Programmer I 問題演習

第 18 週 後期期末試験・フィードバック

第 19 週 後期期末再試験

#### 授業の方法

講義、問題演習

#### 教材

中山清喬/国本大悟(2019)『スッキリわかる Java 入門 第 3 版』インプレス

志賀澄人/山岡敏夫(2020)『徹底攻略 Java SE Bronze 問題集[1Z0-818]対応』インプレス

#### 評価の方法

2024 年度

試験・レポート 80%、授業態度 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

授業外での学習方法

Web サービス「paiza.io」(<https://paiza.io/ja/projects/new?language=java>)を用いて実際にコードを入力してプログラムを実行し授業の内容を復習する。

実務経験と授業科目の関係

POS システム開発会社のシステム構築に長期間従事

# コンピュータシステム

コンピュータを構成するプロセッサ等の処理装置の仕組み、ネットワーク上のシステムの構成、OS の機能や構成や電子回路の仕組みについて、基本情報技術者試験に合格できるレベルの知識を身につける

科	DX ビジネス科	教員	伊賀崎 俊朗
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

## 目標

### 前期

- 「システム」と呼ばれるものの全容とその構成のバリエーションについて理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる
- システムの性能を評価する指標とその算出方法を身につけ、IT パスポート試験の計算問題や選択問題を解けるようになる
- システムを構成するハードウェアの種類とそれぞれの特徴について理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる
- システムを構成するソフトウェアである OS の機能と構造について理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる
- システムを構成するソフトウェアであるアプリケーションソフトウェア、中でも表計算ソフトの特徴と基本的な操作について理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる

### 後期

- コンピュータを構成する要素の 1 つであるプロセッサについて、その動作原理を理解し、プロセッサに関する基本情報技術者試験のレベルの選択問題や計算問題を解けるようになる
- コンピュータを取り巻くネットワーク上の処理システムについて、その種類と特徴や仕組み、評価指標について理解し、システムに関する基本情報技術者試験のレベルの選択問題や計算問題を解けるようになる

8. コンピュータを取り巻くシステムのトレンドについて、BYOD や TCO などの用語について説明できるようになり、基本情報技術者試験のレベルの選択問題を解けるようになる
9. ソフトウェアの1つである OS について、その機能と構成、主な仕事であるタスク管理・入出力管理・記憶管理について理解し、OS に関する基本情報技術者試験のレベルの選択問題や計算問題を解けるようになる
10. ハードウェアを構成する電子回路について、AND 回路、OR 回路、NOT 回路、XOR 回路、NAND 回路、NOR 回路について理解し、電子回路に関する基本情報技術者試験のレベルの選択問題を解けるようになる

## 授業計画

### 前期

- 第 1 回 システムの構成①処理形態による分類
- 第 2 回 システムの構成②利用形態による分類
- 第 3 回 選択問題演習
- 第 4 回 システムの評価指標 (MTBF、MTTR、稼働率)、
- 第 5 回 計算問題演習
- 第 6 回 ハードウェア①コンピュータの種類と特徴
- 第 7 回 ハードウェア②入出力装置の種類と特徴
- 第 8 回 選択問題演習
- 第 9 回 ソフトウェア①OS、データ管理とファイルシステム
- 第 10 回 ソフトウェア②バックアップ
- 第 11 回 ソフトウェア③アプリケーションソフトウェア
- 第 12 回 情報デザイン、オープンソースソフトウェア
- 第 13 回 選択問題演習
- 第 14 回 復習
- 第 15 回 期末テスト
- 第 16 回 期末テスト返却
- 第 17 回 期末テスト再試験

後期

- 第 1 回 コンピュータ構成要素①プロセッサ、メモリ
- 第 2 回 コンピュータ構成要素②キャッシュ、入出力デバイス
- 第 3 回 計算問題演習、選択問題演習
- 第 4 回 システムの構成①冗長化、事業継続性
- 第 5 回 システムの構成②稼働率、待ち行列
- 第 6 回 システムのトレンド（オープンソース、TCO）
- 第 7 回 計算問題演習、選択問題演習
- 第 8 回 ソフトウェア①OS、ファイルシステム
- 第 9 回 ソフトウェア②開発ツール・オープンソースソフトウェア
- 第 10 回 選択問題演習
- 第 11 回 ハードウェア①（電子回路について）
- 第 12 回 ハードウェア②（全加算器、半加算器）
- 第 13 回 計算問題演習、選択問題演習
- 第 14 回 総復習
- 第 15 回 問題演習
- 第 16 回 問題演習
- 第 17 回 期末テスト
- 第 18 回 期末テスト返却
- 第 19 回 期末テスト再試験

授業の方法

講義

教材

教科書：

2024 年度

令和 06 年 イメージ&クレーバー方式でよくわかる かやのき先生の IT パスポート教室

令和 05 年 イメージ&クレーバー方式でよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室 (情報処理技術者試験)

参考書：令和 05 年【春期】【秋期】 応用情報技術者 合格教本 (情報処理技術者試験)、コンピュータ概論：  
情報システム入門 第 8 版

#### 評価の方法

試験・レポート 80%、授業態度 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

#### 授業外での学習方法

<https://www.itpassportsiken.com/ipkakomon.php>

<https://www.fe-siken.com/fekakomon.php>

前期は IT パスポート試験、後期は基本情報技術者試験の「過去問道場」を中心に活用し、授業内での問題演習以外でも、それぞれの回次で学習した範囲の問題演習を自主的に行い知識の定着を図る。

#### 実務経験と授業科目の関係

POS システム開発会社のシステム構築に長期間従事



# ビジネスマナー

## 授業の目的

就職活動に必要な立ち居振る舞いを身に付ける。

企業とやり取りする際のマナーを身に付ける。

日本の文化や慣習を再認識し、社会人として相応しいマナーを身に付ける。

敬語の使い分けを理解する。

来客対応や電話対応を習得する。

仕事の心得や進め方を理解する。

科	DX ビジネス科	教員	梅原 くみこ
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

## 目標

### 前期

- 社会人として相応しい立ち居振る舞いができる。
- 敬語を正しく適切に使うことができる。
- 日本の文化を再認識し、まわりの人に好かれる振る舞いができる。
- 就職活動において、企業とマナーの良いやり取りができる。

### 後期

- 仕事の中に取りべき態度やマナーを理解し、実践できる。
- 人間関係の順序を理解し、適切な来客対応ができる。
- 日本の慣習を知り、社会人として相応しい付き合いができる。
- 敬語の使い分けを理解し、円滑な電話対応ができる。
- 仕事の心得や進め方を学習し、社会人としての自覚をもって社会に出られる。

授業計画

前期

第 1 回 前期内容、試験配点、授業の受け方、アイスブレイク

第 2 回 第 2 章－1 / 2 身だしなみ / あいさつの基本

第 3 回 第 2 章－3 / 4 おじぎ (面接時のおじぎ) / 立ち居ふるまい

第 4 回 第 2 章－5 / 6 物の受け渡しかた / ドアの開け閉め (入退室)

第 5 回 第 2 章－7 名刺交換

第 6 回 第 1 章－12 上下関係 / 第 1 章－13 敬語① (丁寧語)

第 7 回 第 1 章－13 敬語② (尊敬語)

第 8 回 第 1 章－13 敬語③ (謙譲語)

第 9 回 第 1 章－13 敬語④ (まとめ)

第 10 回 第 4 章－9 / 10 / 11 食事の基本 / 和食(洋食)のマナー / お酒のマナー、(第 1 章－14 つき合い)

第 11 回 第 3 章－1 ビジネスメール

第 12 回 第 3 章－2 ビジネス文書の基本

第 13 回 第 3 章－3 ビジネス文書の書き方

第 14 回 まとめ

第 15 回 試験

第 16 回 試験返却

第 17 回 再試験

後期

第 1 回 後期内容、試験配点、授業の受け方、アイスブレイク

第 2 回 第 1 章－4 / 5 / 6 / 7 話し方と聞き方 / 指示の受け方 / 依頼 / 謝罪

第 3 回 第 2 章－11 / 12 企業訪問 / 社外での打ち合わせ

第 4 回 順序 (上と下 / 内と外)

第 5 回 第 2 章－8 席次

第 6 回	第 2 章— 9 ご案内
第 7 回	第 2 章—10 お茶出し
第 8 回	第 4 章— 3 / 4 / 5 / 6 冠婚葬祭【冠／婚／葬／祭】①
第 9 回	第 4 章— 3 / 4 / 5 / 6 冠婚葬祭【冠／婚／葬／祭】②
第 10 回	敬語発展 使い分け①
第 11 回	敬語発展 使い分け②
第 12 回	第 3 章— 4 / 6 電話対応の基本／電話のかけ方
第 13 回	第 3 章— 5 電話の受け方
第 14 回	第 1 章— 1 / 2 / 3 学生と社会人との違い／就業時間遅刻／遅刻・早退・欠勤
第 15 回	第 1 章— 8 / 9 / 10 / 11 情報共有（報連相）／伝え方／仕事の優先順位／情報管理
第 16 回	まとめ
第 17 回	試験
第 18 回	試験返却
第 19 回	再試験

#### 授業の方法

講義、演習

#### 教材

##### 教材

・羽鳥美有紀（2021）『これ一冊でしごとのすべてがわかる！日本で働くための本 - 就活生から社会人まで - 』株式会社アスク出版

##### 参考教材

- ・武田聡子・長崎清美（2020）『留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール』日本能率協会マネジメントセンター
- ・小川誉子美・前田直子（2019）『日本語文法演習 敬語を中心とした対人関係の表現-待遇表現-』スリーエーネットワーク
- ・松本節子（2022）『初級から超級まで STEP 式にほんご練習帳 敬語』株式会社ユニコム
- ・三吉礼子・矢野清美（2004）『あなたの日本語に磨きをかける 敬語（初・中・上級）』専門教育出版

2024 年度

使用機材

プロジェクター、タブレット端末

評価の方法

期末試験 85%、平常点 10%、課題点 5 %

- ・ 期末試験はペーパーテストを実施する。
- ・ 平常点は、授業態度（居眠り、ゲームや SNS 等授業と無関係なスマートフォン等の使用は減点の対象となる）および演習への取り組み姿勢にて採点を行う。

授業外での学習方法

普段から正しい敬語を使って話す・書くを意識し、実践しながら身に付ける。

実務経験と授業科目の関係

商品や接客に関する研修業務に従事

# ビジネス文書

## 授業の目的

Window's (OS を使用した PC 操作を理解し、アプリケーションソフトウェア Word の基礎を習得して実践を重ねていくことにより、検定資格試験が取得可能な技術を身につける。

科	DX ビジネス科	教員	川嶋 忍
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

## 目標

### 前期：

Window's (OS での PC 操作をスムーズに行う。

ローマ字入力による、ひらがなや漢字への変換をスムーズに行う。

基本的な社内文書と社外文書を作成する。

目的に合わせたさまざまなパターン作表をする。

### 後期：

タッチタイピングでキー操作をする。

さまざまなビジネスシーンに見合う文書を、自ら考え作成する。

グラフィック機能を使用し、視覚的に訴える文書を作成する。

MOS 試験などの検定試験を受験する。

## 授業計画

### 前期：

- 第 1 回 オリエンテーション 自己紹介、席決め、  
授業目的 目標 評価 ホームワーク iPad の活用方法) について、PC 取扱注意事項
- 第 2 回 **Window's と PC 操作** パソコンの種類と起動、マウスの操作、  
Window's の画面構成、アプリケーションの起動、キーボードの名称と機能

- 第 3 回 ローマ字 ひらがな 漢字、タッチタイピングの覚え方、入力モードと日本語 IME  
ひらがなの入力、漢字変換
- 第 4 回 **－フォルダやファイル操作－** ウィンドウの操作、ファイル/フォルダの作成と移動  
ファイル/フォルダの表示の変更、ファイルの拡張子について
- 第 5 回 **－Word の基本－** 起動と終了、画面構成、新規文書の作成と個々の文書を閉じる  
文書の保存、読込、まとめ
- 第 6 回 **－入力操作の基本－** ひらがなの入力と改行、文節の変更と漢字変換、  
ひらがなからカタカナ ローマ字の変更、文字の削除と挿入、文字のコピーと貼り付け
- 第 7 回 **－書式設定－** 文字の書式、段落の書式、書式のコピーとクリア、  
箇条書きと段落番号の設定、段組み、ヘッダーとフッターの設定
- 第 8 回 **－ビジネス文書－** 編集記号の表示、ページ設定、ビジネス文書のフォーム、  
社内文書と社外文書、
- 第 9 回 挨拶文、頭語と結語、記書き、ビジネス文書の編集
- 第 10 回 **－表の作成－** 表の構成、範囲選択方法、行列の挿入と削除、高さやサイズ変更、結合 分割  
表のデザイン、Excel との連携
- 第 11 回 **－MOS 試験対策－**  
}
- 第 13 回 答練
- 第 14 回 前期の総まとめ 前期期末試験対策
- 第 15 回 前期期末試験
- 第 16 回 前期期末試験返却 解説
- 第 17 回 前期期末再試験

#### 授業計画

後期：

- 第 1 回 前期の総まとめ、後期目標の確認、後期実施予定の検定試験について
- 第 2 回 **－書式設定・応用編－**  
} いろいろなページ区切りと段組み、ヘッダーとフッターのユーザー設定、
- 第 3 回 ( ( 表紙とページ番号
- 第 4 回 **－グラフィック要素 1・2－**  
} ワードアートの挿入、画像の書式設定
- 第 5 回 画像の挿入と配置、スマートアートの挿入、編集
- 第 6 回 テキストボックスの挿入と設定、図形の挿入と設定、図形の応用、練習問題、まとめ
- 第 7 回 ( 暑中見舞いはがき/ポストカードの作成
- 第 8 回 **MOS 検定試験対策－**

2024 年度

〉

第 12 回 答練

第 13 回 **－ビジネス活用－** テンプレートの活用、さまざまな表作成、各ビジネス書式フォーム作成

第 14 回 案内状（縦書き）の作成

第 15 回 申込書の作成 ポスターの作成

第 16 回 1 年間の総まとめ 後期期末試験対策

第 17 回 後期期末試験

第 18 回 後期期末試験返却 解説

第 19 回 後期期末再試験

#### 授業の方法

タッチタイピング練習→講義 必ず前回の振り返りを行う→実践→演習→確認。

単元ごとにミニテストを配信。学生は学校貸与の iPad を使用し、スキルチェックを行い弱点を克服する。

スキル不足の学生については、授業外の学習方法についても見直しを図る。

#### 教材

生徒配布

著者：富士通エフオーエム株式会社（2021）

『よくわかる Word2021&Excel2021 スキルアップ問題集 操作マスター編』（出版：FOM 出版）

教師所持

著者：富士通エフオーエム株式会社

MOS Word 365 対策テキスト&問題集（よくわかるマスター）

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度 10%、授業外での学習 10%。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

授業外での学習は、配信された課題へのチャレンジ等、自主性により評価する。

#### 授業外での学習方法

2024 年度

Google (Classroom を使用して、配信された授業のまとめを振り返り、疑問点をなくす。

授業欠席者は、ここで授業内容の確認をする。

長期休暇中 期末試験前 検定試験前には、模擬テストや質問コーナーのトピックを設けるので  
総復習を行い、疑問点については質問コーナーのトピックで質問する。

実務経験と授業科目の関係

データ作成代行業務に従事。



# ビジネスコミュニケーション I

## 授業の目的

- ①交渉が交渉相手との勝負ではなく、同じゴールを共に達成するためのコミュニケーションであることが理解できるようになるため
- ②ビジネスシーンで駆け引きのために使われる交渉戦術のメカニズムの理解を深めるため

科	DX ビジネス科	教員	寺尾 寿樹
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	9 8

## 目標

(前期) 交渉のプロになるための自己理解を深める

- ① 自分の立場を客観的に理解する
- ② 自分の最大限の力を引き出す方法を理解する
- ③ 相手の譲歩を引き出す手札の使い方を理解する
- ④ お互いの主張における妥協点のを見つけ方を理解する
- ⑤ 会話が上手なくても交渉をうまく進める方法を理解する

(後期) 交渉をスムーズに行うテクニカルメソッドを身につける

- ⑥ 会話の流れから相手の戦略をつかめることができる
- ⑦ ハーバード流交渉術を理解する
- ⑧ 相手の建前と本音の境界を見極めることができる
- ⑨ 相手の本音を引き出す話の聴き方ができる
- ⑩ インターバルを取り、冷静になる必要性を知る

## 授業計画

授業内にテキストからインプットした知識をアウトプットすることで定着させる

(前期) 第 1 回 オリエンテーション 授業の目的・目標・成績評価方法等説明

- 第 2 回 交渉の基礎知識
- 第 3 回 交渉のプロになるための自己理解
- 第 4 回 交渉をスムーズに行うテクニカルメソッド
- 第 5 回 ブレインストーミングとは
- 第 6 回 ハーバード流交渉術とは
- 第 7 回 双方が勝つ WIN-WIN 交渉術
- 第 8 回 相手のニーズを理解する方法
- 第 9 回 本音と建前の境界を見極める
- 第 10 回 本音を引き出す話の聴き方
- 第 11 回 相手の情報を引き出す質問力
- 第 12 回 相手を引き込む話し方
- 第 13 回 自分の主張をするタイミング (いつ行うべきか)
- 第 14 回 前期 まとめ 試験対策
- 第 15 回 前期本試験
- 第 16 回 前期本試験返却
- 第 17 回 前期再試験

- (後期)
- 第 1 回 オリエンテーション 授業の目的・目標・成績評価方法等説明
  - 第 2 回 前期内容のふりかえり
  - 第 3 回 相手のペースに流されないために (相手の反論に対応する方法)
  - 第 4 回 インターバルと冷静さ、心理テクニック (相手の動揺と沈黙)
  - 第 5 回 交渉の落としどころ 利益とリスクのバランスを見極める
  - 第 6 回 相手にどこまで情報を伝えるべきか
  - 第 7 回 交渉の限界点は明確にする
  - 第 8 回 勝ち相手は譲る
  - 第 9 回 交渉でのリスク回避の方法
  - 第 10 回 交渉の完結はいつ
  - 第 11 回 交渉の失敗を活かすフィードバック方法

- 第 12 回 対象別交渉術 上司・部下・他部署・取引先担当者 との交渉術
- 第 13 回 立場別交渉術 初対面・新人でも優位に立てる交渉術
- 第 14 回 場所別交渉術 自社・相手の会社・公共の場所での交渉術
- 第 15 回 状況別交渉術と制限別交渉術
- 第 16 回 後期 まとめ 試験対策
- 第 17 回 後期本試験
- 第 18 回 後期試験返却
- 第 19 回 後期再試験

#### 授業の方法

インプット（ワーク）とアウトプット（プレゼンテーション）・ディスカッション  
基本：学生が担当箇所を自学自習した後、その内容をレクチャーし、質疑応答する

#### 教材

谷原 誠 テキスト「知識ゼロからのビジネス交渉術」幻冬舎

田村次朗 テキスト「ハーバード×慶應流 交渉学入門」中公新書ラクレ

岩瀬大輔（訳）テキスト「交渉力は武器になる」三笠書房

富樫奈美子（訳）テキスト「15分でチームワークを高めるゲーム39」discover・21

#### 評価の方法

期末試験 60%、授業態度 20%、課題学習（提出物） 20%

期末試験、出席状況（欠席・遅刻・早退・居眠り・ゲームや SNS 等、授業と関係のないスマホ等の使用は減点の対象とする）、課題学習（提出の有無・取り組みの姿勢・成果物の出来栄え・発表等）を総合的に評価する

#### 授業外での学習方法

Google フォーム等

2024 年度

実務経験と授業科目の関係

企業での勤務（営業セールス等販売経験）ハローワーク・少年院・企業研修等  
人財育成支援プログラムの提案・販売経験アリ、その他大学・短大・専門学校・  
高校でのコミュニケーション、プレゼンテーション等ソーシャルスキルを磨く  
科目を現在も授業を担当中

## ビジネス表計算

表計算ソフト Microsoft Excel、Google スプレッドシートの操作方法を習得し、用途に応じて適切に機能を使い分け、短時間で効率的にリストや管理表を作成しデータの集計ができるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	井田 洋佑
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

### 目標

#### 前期

- ・ Microsoft Excel の基本的な操作方法を習得し、適切な体裁で顧客名簿を作成できるようになる。
- ・ Microsoft Excel を用いて、名簿と紐づけられた数値データに対して関数による自動計算ができる。
- ・ セルの書式設定や罫線など、体裁に関する表計算ソフトの基本的な機能について理解し、体裁が乱れたデータを適切に修正できるようになる。

#### 後期

- ・ IF 関数と VLOOKUP 関数を組み合わせ、全ての情報が格納されたマスターデータから、一定の条件を満たす特定のデータだけを適切なレイアウトで取り出したレポートを作成できるようになる。
- ・ 操作ミスによって破損してしまった Google スプレッドシートのデータを復元することができる。
- ・ 多すぎる種類の情報が格納されたリストを分割し、主キーを軸に複数のリストを正確に紐づけることができる。

### 授業計画

#### 前期

##### 第 1 回 オリエンテーション

授業目的・目標・評価・ホームワーク(iPad の活用方法)について、PC 取扱注意事項

##### 第 2 回 Excel の基本

起動と終了、画面構成、シートの作成・削除、保存、読込、フォルダ作成

### 第3回 セル操作の基本

セルとシート、データの入力と修正、データの消去、セルや行列の削除・挿入、データのコピーと移動、オートフィル、セルの表示形式

### 第4回 表の作成と編集①

配置、フォント、フォントサイズ、罫線、線種、塗りつぶし

### 第5回 表の作成と編集②

表のスタイル、表の検索と置換、表の並べ替えとテーブルの解除リスト作成演習（クラス名簿）

### 第6回 リスト作成演習①

クラス名簿を作る

### 第7回 数式と参照①

合計の計算、関数を使った合計や平均の計算、最大、最小

### 第8回 数式と参照②

相対参照、絶対参照、複合参照

### 第9回 グラフ機能

円グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの色やレイアウト、スタイルの変更、棒グラフの作成、グラフの種類や表示の変更

### 第10回 リスト作成演習②（顧客名簿）

クラス名簿と数値データを紐づけ計算を行い、その結果をグラフ化する

### 第11回 リストの体裁を維持・保護する機能

シートの保護・範囲の保護、セルのサイズ調整、行と列の固定、形式を選択して貼り付け、データの入力規則、理想的なデータの形状

### 第12回 リスト修正演習①

体裁の乱れたリストの見た目を整える

### 第13回 リスト修正演習②

フィルターが正常に機能しないリストを修正する（表記ゆれ、半角全角、数値と文字列、セル結合）

### 第14回 問題演習

第 15 回 前期期末試験

第 16 回 前期期末試験返却・フィードバック

第 17 回 前期期末再試験

後期

第 1 回 前期の復習

第 2 回 高度な関数①

IF 関数と条件分岐、IFS 関数と複数の条件分岐

第 3 回 高度な関数②

数値の四捨五入、切り捨て、切り上げ、順位付け、昇順と降順

第 4 回 高度な関数③

VLOOKUP 関数、関数のネスト、エラーコードの解読

第 5 回 リスト作成演習③

IF 関数と VLOOKUP 関数を用い、マスターデータから希望するデータを取り出す

第 6 回 リスト作成演習④

前期に作成したクラス名簿から証明書フォーマットを作成する

第 7 回 スプレッドシートについて

Excel との違い、Google ドライブを用いた共有、同時編集機能、編集履歴の保存機能

第 8 回 リスト復元演習

破損・消去されてしまった Google スプレッドシートのデータを復元する

第 9 回 データの正規化

冗長性の排除、主キーの抽出、完全関数従属の実現

第 10 回 リスト分割演習①

第 11 回 リスト分割演習②

要素が多すぎる一つのリストを複数のリストに分割する

主キーがあるリストの情報をもとに他のリストの情報も一意に定まるようにする

第 12 回 資格試験問題演習①

2024 年度

- 第 13 回 資格試験問題演習②
- 第 14 回 資格試験問題演習③
- 第 15 回 問題演習①
- 第 16 回 問題演習②
- 第 17 回 後期期末試験
- 第 18 回 後期期末試験返却・フィードバック
- 第 19 回 後期期末再試験

#### 授業の方法

講義、演習、グループワーク

#### 教材

##### 主教材

・著者:楳村麻里子・松下孝太郎・津木裕子・平井智子・山本光・両澤敦子 (2020)  
『留学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint 入門』 出版:株式会社技術評論社

・著者:富士通エフオーエム株式会社 (2020)  
『よくわかる Word2019&Excel2019 スキルアップ問題集 操作マスター編』 出版:FOM 出版

##### 参考書

・著者:日本情報処理検定協会 (2019) 『情報処理技能検定試験(表計算)模擬問題集』 3・4 級編  
出版:日本情報処理検定協会

・著者:桑名由美(2022) 『Googleworkspace 完全マニュアル [第 2 版] 』 出版:秀和システム

・著者:薬師寺国安(2022) 『Google スプレッドシートとツボとコツがゼッタイにわかる本』

出版:秀和システム

・著者:相澤裕介 (2019)

『留学生のためのタイピング練習ワークブック Window's10 版』 出版:株式会社カットシステム

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%



2024 年度

授業態度点には、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行い、授業時間内で作成するリスト作成課題の結果を含めるものとする。

授業外での学習方法

実務経験と授業科目の関係

システム・学生情報管理課にてにて、エクセル関数を使用したデータ作成・データ管理業務に従事。

# 英語 I

## 授業の目的・概要

日常会話を超え、国際的なビジネスの場面に通用する会話力を身に付ける。  
TOEIC を受験し、500 点以上の点数を取ることができる。

科	DX ビジネス科	教員	大島 静流
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	1 年次	年間単位時間	49

## 目標

(Listening)

TOEIC の問題を中心に演習し、電話やアナウンスで示された情報を正しく理解し処理できる。

(Reading)

TOEIC の問題を中心に演習し、E メールや掲示板、広告等で示された情報を正しく理解し処理できる。

## 授業計画

前期

第 1 回 オリエンテーション・自己紹介

第 2,3 回 UNIT1 Technology

第 4,5 回 UNIT2 Job Skills

第 6,7 回 UNIT3 Management

第 8,9 回 UNIT4 Law

第 10,11 回 UNIT5 News and Media

第 12,13 回 UNIT6 Real Estate

2024 年度

第 14 回 TOEIC 試験実践

第 15 回 試験

第 16 回 試験返却・フィードバック

第 17 回 再試験

後期

第 1 回 オリエンテーション・自己紹介

第 2,3 回 UNIT7 Business Travel

第 4,5 回 UNIT8 At a Conference

第 6,7 回 UNIT9 Weather

第 8,9 回 UNIT10 Meetings

第 10,11 回 UNIT11 Manufacturing

第 12,13 回 UNIT12 Business Entertainment

第 14,15,16 回 TOEIC 試験実践

第 17 回 試験

第 18 回 試験返却・フィードバック

第 19 回 再試験

授業の方法

講義・グループワーク

教材

教科書：“Developing TOEIC Skills”, Andrea Jansen and Michael Souza, Seed Learning

参考資料：なし

評価の方法

前期：試験 80%、授業態度 20%

2024 年度

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

授業外での学習方法

実務経験と授業科目の関係

# デザイン思考

## 授業の目的・概要

ユーザーの視点から課題を発見するデザイン思考の考え方を身につけ、デジタル技術を活用して顧客に新しい価値提供ができる方法を考えられるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	森 賢司
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

## 目標

- 「観察・共感 (Empathize)」「定義 (Define)」「概念化 (Ideate)」「試作 (Prototype)」「テスト (Test)」を構成要素とするデザイン思考のフレームワークを実例に基づいて説明できるようになる。
- ビジネスで活用しやすい、標準化・正規化されたデータを作成できる。
- デジタル技術を活用して顧客データから確度の高い見込客を選別するプロセスを、サンプルデータを使って再現できるようになる。
- 未来予想やユーザー観察から得られた知見をもとに「理想」を描き、自動化・効率化に取り組むことができるようになる。

## 授業計画

### 前期

#### 第 1 回 アイスブレイク、逆算の DX とは

1 年次の「デジタルトランスフォーメーション」第 1 回～第 5 回の内容を振り返り、  
定着度を確認する。

#### 第 2 回 デザイン思考とは：トヨタ×富士通、Spotify

トヨタの多治見サービスセンターにおけるアイデア出しのワークショップ、  
ユーザーの意見が自由に出されその内容は実際に社内で検討される Spotify Community を例に、

デザイン思考というフレームワークの特徴と利点を理解する。

第 3 回 データの標準化・正規化

課題発見と顧客への新しい価値提供には適切なデータ分析が不可欠であることを理解する。

その前提として形式がバラバラなローデータの繰り返しを排除して正規化できるようになる。

第 4 回 BtoB におけるアプローチリストの収集と管理

営業リストの基本的な記載項目と企業情報の収集方法にはどのようなものがあるか理解する。

リストを形成せず営業活動を行うことのデメリットと、リスト管理の重要性を理解する。

第 5 回 演習：問い合わせフォームによる情報収集、スプレッドシートによるリスト作成

HubSpot フォームを用いて個人情報・顧客情報収集のシミュレーションを行う。

また第 3 回の内容を生かし、取得した情報をスプレッドシートで過不足なく整理できる。

第 6 回 リスト管理のポイント・失敗例

スプレッドシートでリストを運用する上で有効な機能を権限管理・入力規則を中心に理解する。

また適切なデータ入力できていないことで営業活動の効率が下がることを理解する。

第 7 回 グループワーク：問い合わせフォームを用いた情報収集の改善提案

第 8 回 グループワーク：問い合わせフォームを用いた情報収集の改善提案

第 9 回 グループワーク：問い合わせフォームを用いた情報収集の改善提案発表

問い合わせフォームを活用することで売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスを

グループで見つけ、具体的にどんなサービスを用いて業務を改善するかを発表する。

第 10 回 グループワーク：スプレッドシートを用いた顧客リスト管理の改善提案

第 11 回 グループワーク：スプレッドシートを用いた顧客リスト管理の改善提案

第 12 回 グループワーク：スプレッドシートを用いた顧客リスト管理の改善提案発表

スプシで顧客リストを管理することで売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスを

グループで見つけ、具体的にどんな項目を設けてリストを運用するかを発表する。

第 13 回 グループワーク：フィードバック

第 14 回 グループワーク：フィードバック

第 15 回 試験

第 16 回 試験返却

第 17 回 再試験

後期

第 1 回 前期の復習、逆算の思考法

前期第 1 回の内容と、前期全体の内容と逆算の DX との関係性について、定着度を確認する。

第 2 回 BtoB におけるリードナーチャリング

前期の内容を振り返りながら、マーケティング全体の流れの中でリスト獲得が

「リードジェネレーション」に該当することを理解する。

また、獲得したリードの購入意欲を高める「リードナーチャリング」のメリットと、具体的にどのような取り組みをしたらよいか理解する。

第 3 回 演習：メール一斉配信ツール（配信メール）

配信メールを用いてメール一斉配信のシミュレーションを行う。

配信対象に開封してもらうようなタイトルや記載内容を工夫して各自文案を起案する。

第 4 回 グループワーク：メール一斉配信ツールを用いたリード育成の提案

第 5 回 グループワーク：メール一斉配信ツールを用いたリード育成の提案

第 6 回 グループワーク：メール一斉配信ツールを用いたリード育成の提案発表

どのようなアプローチを受けたら企業は NEXTJAPAN サイトに求人を掲載したくなるかグループごとに考え、一斉メールの内容を起案する。

第 7 回 BtoB におけるリードクオリフィケーション

後期第 2 回の内容を振り返りながら、リードナーチャリングの後で

購入の可能性の高い顧客を選別するプロセスである

「リードクオリフィケーション」の段階では具体的にどのような取り組みを行うか理解する。

第 8 回 CRM ツールの役割と機能：Hubspot、Salesforce、Kintone

後期前半の内容について、Hubspot、Salesforce、Kintone を例に、

CRM ツールの活用によってより効率的にマーケティング活動が行えることを理解する。

また各ツールに備えられた機能とそれぞれの特徴について知る。

第 9 回 演習：CRM ツール（Hubspot）

後期前半の内容について、実際のマーケティングを HubSpot 上で行う場合、  
どのプロセスでどの機能を使うことになるかを理解する。

第 10 回 グループワーク：自動返信機能（メール・チャットボット）の活用提案

第 11 回 グループワーク：自動返信機能（メール・チャットボット）の活用提案発表

CRM ツールの自動返信機能（メール・チャットボット）の活用で  
業務効率や売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスを  
グループで見つけ、具体的にどんなシチュエーションで導入すべきかを発表する。

第 12 回 グループワーク：集計機能の活用提案

第 13 回 グループワーク：集計機能の活用提案発表

CRM ツールの集計機能の活用で  
業務効率や売り上げの改善が図れると思われる業態やサービスを  
グループで見つけ、具体的にどんなシチュエーションで導入すべきかを発表する。

第 14 回 グループワーク：業務改善提案

第 15 回 グループワーク：業務改善提案

第 16 回 グループワーク：業務改善提案発表

教師が学校で行っている業務を例に出し、グループで業務の効率化や自動化を行える部分はない  
か討論を行う。具体的にどのような改善案が考えられるか、発表を行う。

第 14 回 グループワーク：見込客割り出し・新規提案デモ

第 15 回 グループワーク：見込客割り出し・新規提案デモ発表

HubSpot 上の NEXTJAPAN 企業データをサンプルとして一部用い、  
オプションサービスを購入する可能性が高い顧客を割り出すシミュレーションを行う。  
対応記録を参考に、どういったやり方でどんな商品を提案すれば  
サービスを購入してもらえるか、グループで議論してアイデアを発表する。

第 16 回 グループワーク：全体フィードバック

第 17 回 試験

第 18 回 試験返却

第 19 回 再試験



授業の方法

講義、ケーススタディ、グループワーク

教材

自作教材を使用する

- ・ Google スプレッドシート
- ・ Hubspot / WebPerformer
- ・ GAS

< 参考書 >

岡嶋裕史『実況! ビジネス力養成講義 プログラミング/システム』（日本経済新聞出版、2022）

ティム・ブラウン『デザイン思考が世界を変える イノベーションを導く新しい考え方』（早川書房、2019）

庭山一郎『BtoB のためのマーケティングオートメーション 正しい選び方・使い方 日本企業のマーケティングと営業を考える』（翔泳社、2015）

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

授業外での学習方法

ケーススタディについては、各自前もって必要な調べ学習を行う。

実務経験と授業科目の関係

## 統計学・データアナリティクス

データを効率的に処理・分析し、その結果から売上を向上させるアイデアを提案できるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	西田 智
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象	2 年次	年間単位時間	49

### 目標

#### 前期

- 表計算ソフトで MOS Expert レベルの関数を用いた計算やデータの抽出を行うことができる。
- 表計算ソフトのマクロ機能を用いて一連の操作を記録しておいた状態で実行し、作業時間を短縮することができる。
- 表計算ソフトの機能を利用してグラフとしてデータを図示することができる。
- その機能の利用に適した形にデータを成形し、表計算ソフトのピボットテーブル機能を利用して分析・集計することができる。

#### 後期

- 特定のデータについて、表やグラフを含む資料を用いてその状況を説明できるようになる。
- 統計学の手法を用い、特定のデータが持っている傾向やそのデータ内の要素同士の関係性を読み取ることができる。
- データの集計・分析に基づいて次にとるべき戦略を起案し提案することができる。

### 授業計画

#### 前期

##### 第 1 回 オリエンテーション

授業の目的、本講義の全体像、統計学とは、データアナリティクスとは

##### 第 2 回 1 年次の復習①（基本的な関数）

SUM、AVERAGE 等

第 3 回 1 年次の復習②（高度な関数）

IF、IFS、VLOOKUP 等

第 4 回 資格試験問題演習（関数）

第 5 回 マクロ機能について

マクロの作成、実行、編集

第 6 回 実践演習（マクロ）

第 7 回 集計・分析に適したデータの形式について

クロス集計表とリスト集計表、表形式の変換、書式の統一

第 8 回 高度な機能を使用したグラフ①

2 軸グラフ、ヒストグラム、パレート図、箱ひげ図

第 9 回 高度な機能を使用したグラフ②

マップグラフ、サンバースト、じょうごグラフ、ウォーターフォール図

第 10 回 資格試験問題演習（グラフ）

第 11 回 ピボットテーブル

第 12 回 ピボットグラフ

第 13 回 資格試験問題演習（ピボットテーブル）

第 14 回 資格試験問題演習（まとめ）

第 15 回 前期期末試験

第 16 回 前期期末試験返却・フィードバック

第 17 回 前期期末再試験

後期

第 1 回 前期の復習

第 2 回 平均と中位数

第 3 回 四分位範囲

第 4 回 分散

第 5 回 相関分析

第 6 回 クラスター分析

第 7 回 報告書作成演習①

第 8 回 報告書作成演習②

サンプルデータが示す現在の状況を表やグラフにまとめて報告する

第 9 回 報告書作成演習③

第 10 回 報告書作成演習④

サンプルデータから読み取れるデータの傾向を分析しまとめて報告する

第 11 回 グループワーク

第 7 回～第 10 回までの演習に基づき、より多くの売り上げるためのアイデアをまとめた企画書を作成しプレゼンテーションを行う

第 12 回 発表①

第 13 回 発表②

第 14 回 発表③

第 15 回 発表フィードバック①

第 16 回 発表フィードバック②

第 17 回 後期期末試験

第 18 回 後期期末試験返却・フィードバック

第 19 回 後期期末再試験

授業の方法

講義、演習

教材

山下秀二(2023)『よくわかるマスター Microsoft® Office Specialist Excel 365&2019 Expert 対策テキスト &問題集』(富士通エフ・オー・エム株式会社)

倉田博史(2019)『図解 大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる』(KADOKAWA)

岡嶋裕史・吉田雅裕(2021)『はじめての AI リテラシー(基礎テキスト)』(技術評論社)

2024 年度

評価の方法

試験 80%、授業態度 20%

授業態度点には取り組む姿勢や出席状況等、授業時間内で作成する報告書・提案書作成課題の結果を含めるものとする。

授業外での学習方法

—

実務経験と授業科目の関係

# 簿記

## 授業の目的・概要

- ・ IT パスポート試験の会計・財務範囲の問題を解くことができるようになる。
- ・ 日商簿記 3 級の資格を取得する
- ・ 収入と支出の内容を理解し、経理の流れをしっかりと把握することができるようになる。
- ・ 予算管理の意識を持ち、目標達成に必要なコストを経理面から管理することができるようになる
- ・ 簿記の日常業務を理解し、勘定科目と関連付けて、会社全体の営業活動をイメージできる。
- ・ 会計目線・経営目線から、デジタル化・業務改善・ビジネスモデルなどを捉え、マネジメント・評価することができる

科	DX ビジネス科	教員	西田 智
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

## 目標

- ・ 簿記を学ぶ目的（会社の財政状態が把握できる）を説明できる
- ・ 取引の発生→仕訳→総勘定元帳への転記→試算表作成→決算整理→財務諸表作成→帳簿の締切という経理の流れを説明できる
- ・ 簿記の仕訳で使用される用語(82 語)を覚え、取引を確認した際に貸方と借方への仕訳を正しく行うことができる
- ・ 取引を確認して、帳簿(仕訳帳・総勘定元帳・現金出納帳・当座預金出納帳・小口現金出納帳・仕入帳・売上帳・受取手形記入帳・支払手形記入帳・商品有高帳・買掛金元帳・売掛金元帳・固定資産台帳)を正しく作成することができる

## 後期

- ・ 簿記の仕訳で使用される用語(82 語)を覚え、取引を確認した際に貸方と借方への仕訳を正しく行うことができる

2024 年度

- ・総勘定元帳を元に試算表(合計試算表・残高試算表・合計残高試算表)を正しく作成することができる
- ・取引を確認して、伝票(入金伝票・出勤伝票・振替伝票)へ正しく記入することができる
- ・決算整理(現金過不足の処理・当座借越の振替・貯蔵品の振替・貸倒引当金の設定・固定資産の減価償却・消費税の処理・前払、前受、未払、未収の処理・売上原価の算定・法人税等の計上・当期純利益、当期純損失の計上)を正しく行い、試算表から精算表を作成することができる
- ・精算表から財務諸表(損益計算書・貸借対照表)を正しく作成することができる
- ・各勘定科目の振替及び締切を行い、正しく帳簿を締め切ることができる
- ・売上と利益の関係を理解し、財務諸表から利益率や損益分岐点を求めることができる。

## 授業計画

前期

- 第 1 回 オリエンテーション、本授業の目的・目標・年間予定伝達
- 第 2 回 簿記とは何か・簿記の役割(P2～P11)
- 第 3 回 商品売買・現金・預金の仕訳①(P12～P49)
- 第 4 回 商品売買・現金・預金の仕訳②(P12～P49)
- 第 5 回 小口現金・手形・電子記録債権・貸付金・借入金の仕訳(P54～P77)
- 第 6 回 第 3～5 回の復習
- 第 7 回 その他の債権債務・その他の費用(P80～P113)の仕訳
- 第 8 回 貸倒と貸倒引当金・有形固定資産と減価償却・株式の仕訳(P120～P153)
- 第 9 回 法人税と消費税・前払・未払い・訂正・税金の仕訳(P158～P185)
- 第 10 回 第 7 回～第 9 回の復習
- 第 11 回 帳簿への記入①(P190～P195)
- 第 12 回 帳簿への記入②(P196～P201)
- 第 13 回 帳簿への記入③(P202～P209)
- 第 14 回 第 11 回～第 14 回の復習
- 第 15 回 前期試験
- 第 16 回 試験返却・解説

第 17 回 前期試験再試験

後期

第 1 回 オリエンテーション、本授業の目的・目標・年間予定伝達

第 2 回 前期の復習(仕訳)

第 3 回 前期の復習(帳簿への記入)

第 4 回 試算表 (P212~P213)

第 5 回 伝票(P220~P233)

第 6 回 決算手続①(決算整理)(P244~P257)

第 7 回 決算手続②(決算整理)(P259~273)

第 8 回 決算手続③(試算表作成) (P212~P213)

第 9 回 決算手続④(財務諸表作成) (P272~P273)

第 10 回 決算手続の復習

第 11 回 帳簿の締切(P276~P283)

第 12 回 売上と利益の関係、利益・利益率の種類

第 13 回 損益分岐点、固定費・変動費、変動費率

第 14 回 損益分岐点の計算、エクセルでのグラフ作成

第 15 回 簿記 3 級問題演習①

第 16 回 簿記 3 級問題演習②

第 17 回 後期試験

第 18 回 後期試験返却・復習

第 19 回 後期試験再試験

授業の方法

講義・問題演習

教材



2024 年度

- ・新なるほど合格塾 日商簿記 3 級 第 2 版 穂坂治宏 中央経済社
- ・令和 06 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる かやのき先生の IT パスポート教室 栢木厚 技術評論社

#### 評価の方法

試験 80%・授業態度 20%

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

#### 授業外での学習方法

授業内容の復習・問題演習

- ・新なるほど合格塾 日商簿記 3 級の演習問題
- ・IT パスポート過去問道場

※試験の過去問演習を行い、知識の定着を図る

- ・翻訳ツール

Google 翻訳(用語の意味理解の補助)

#### 実務経験と授業科目の関係

# 人的資源管理

## 授業の目的・概要

- 経営学検定初級レベルの「人的資源管理」の知識をつける
- 売上（業務効率）を最大化するような、合理的で無駄のないタスク管理ができる

科	DX ビジネス科	教員	谷山 丈慶
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

## 目標

### 前期

- 人的資源の重要性を説明することができる。
- 人的資源管理を行うことのメリット・デメリットを挙げることができる。
- 採用や雇用形態の種類を挙げ、メリット・デメリットを説明することができる。
- 企業の成功事例から人的資源管理を行う上で重要な要素を考察することができる。

### 後期

- 賃金の仕組み、人材配置の重要性を説明することができる。
- タスクを整理し、ガントチャートを作成することができる。
- 作成したガントチャートから必要な人的資源を見積もることができる

## 授業計画

### 前期

- 第 1 回 オリエンテーション、本授業の目的・目標・年間予定伝達
- 第 2 回 人的資源とは
- 第 3 回 人的資源管理とは、人事管理との違い
- 第 4 回 人的資源管理を行うことのメリット・デメリット（グループワーク）

第 5 回 人的資源管理を行うことのメリット・デメリットの発表（グループワーク）

第 6 回 人的資源管理の要素

第 7 回 採用の種類、採用方法ごとのメリット・デメリット（グループワーク）

第 8 回 採用方法ごとのメリット・デメリットの発表（グループワーク）、まとめ

第 9 回 雇用形態、雇用形態の種類

第 10 回 雇用形態ごとのメリット・デメリット（グループワーク）

第 11 回 雇用形態ごとのメリット・デメリットの発表（グループワーク）、まとめ

第 12 回 人材育成・人材育成の方法

第 13 回 企業事例紹介、企業事例から成功する要因を議論（グループワーク）

第 14 回 企業事例から成功する要因を議論・発表（グループワーク）

第 15 回 前期試験

第 16 回 試験返却、フィードバック

第 17 回 再試験

後期

第 1 回 前期の復習、後期の目標伝達

第 3 回 賃金の種類、種類ごとのメリット・デメリット（グループワーク）

第 4 回 種類ごとのメリット・デメリットの発表（グループワーク）

第 5 回 福利厚生

第 5 回 人材の配置、異動

第 6 回 人的資源管理の要素まとめ

第 7 回 小テスト

第 8 回 テストフィードバック

第 9 回 業務スケジュール作成の工程

第 10 回 業務スケジュールデモンストレーションのテーマ・目標発表

（半年後にキャリアフォーラムの開催）、To do リストの作成（グループワーク）

第 11 回 To do リストの作成・発表（グループワーク）

第 12 回 プロジェクトの進め方を計画（グループワーク）

2024 年度

- 第 13 回 ガントチャートの作成
- 第 14 回 ガントチャートの作成
- 第 15 回 必要な人的資源の見積もり（各作業でどのくらいの人数が必要か）（グループワーク）
- 第 16 回 グループごとの発表・フィードバック
- 第 17 回 前期試験
- 第 18 回 試験返却、フィードバック
- 第 19 回 再試験

#### 授業の方法

講義・グループワーク

#### 教材

- ・『人的資源管理』（上林 憲雄）  
[人的資源管理（【ベーシック+】） | 上林 憲雄 | 本 | 通販 | Amazon](#)
- ・『経験から学ぶ人的資源管理 新版』（上林 憲雄）  
[経験から学ぶ人的資源管理 新版\(有斐閣ブックス\) | 上林 憲雄, 厨子 直之, 森田 雅也 | 本 | 通販 | Amazon](#)
- ・『新しい人事労務管理 第 6 版』（佐藤 博樹, 藤村 博之, 八代 充史）  
[新しい人事労務管理 第 6 版\(有斐閣アルマ > Specialized\) | 佐藤 博樹, 藤村 博之, 八代 充史 | 本 | 通販 | Amazon](#)

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

#### 授業外での学習方法

バイトなどで人的資源管理の実態を把握し、授業内容の理解を深める。

#### 実務経験と授業科目の関係

# マーケティング・デザイン

デジタルマーケティングの考え方を理解して、サイト作成ツールを用いたデジタルマーケティングができるようになる

科	DX ビジネス科	教員	大島 静流
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

## 目標

### 前期

- デジタルマーケティングを、認知拡大・理解の促進・顧客化、リピーター化までの流れに沿って説明することができる
- デジタルマーケティングについて、個人向け・会社向けのアプローチ方法・活用するツールについて説明することができる
- Google サイトを用いたサイトを作成することができる
- 集客効果を高めるために必要な Web ページの要素を説明することができる

### 後期

- デザイン・UI・UX の観点から作成した HP の改善をできる
- Google サイトを用いて、アナリティクスの KPI に着目しながら作成 HP の改善をできる
- デジタルマーケティングについて、ランディングページや SNS、広告といった重要ポイントについて、説明できることができるようになる
- デジタルマーケティングの知識を活用して、コンバージョン率の高い Web ページの制作ができる

授業計画

前期

- 第 1 回 授業の全体像（デジタルマーケティングの導入）
- 第 2 回 マーケティングとは
- 第 3 回 デジタルマーケティングとは
- 第 4 回 デジタルマーケティングと Web マーケティング
- 第 5 回 Web サイトの活用と目的
- 第 6 回 デザインとマーケティング、デザインの基礎
- 第 7 回 Web デザインの基礎
- 第 8 回 Web デザインと UX
- 第 9 回 集客効果の見込まれるデザイン
- 第 10 回 実践 Google サイト①(サイト制作)
- 第 11 回 実践 Google サイト②(サイト制作)
- 第 12 回 実践 Google サイト③(効果検証)
- 第 13 回 実践 Google サイト④(改善の取り組み)
- 第 14 回 復習
- 第 15 回 期末試験
- 第 16 回 期末試験返却
- 第 17 回 再試験

後期

- 第 1 回 前期の復習、後期の導入
- 第 2 回 Web 分析ツールの特徴
- 第 3 回 Web 分析ツールの構造・設定
- 第 4 回 UI・UX
- 第 5 回 実践 (UI・UX)
- 第 6 回 Google アナリティクスで分析する

2024 年度

- 第 7 回 実践 Google サイト①(サイト制作)
- 第 8 回 実践 Google サイト②(サイト制作)
- 第 9 回 実践 Google サイト③(効果検証)
- 第 10 回 実践 Google サイト④(改善の取り組み)
- 第 11 回 デジタルマーケティング重要ポイント (SNS、広告)
- 第 12 回 デジタルマーケティング重要ポイント (ランディングページ、SEO)
- 第 13 回 デジタルマーケティングの気を付けるポイント
- 第 14 回 デジタルマーケティングの気を付けるポイント
- 第 15 回 復習
- 第 16 回 復習
- 第 17 回 期末試験
- 第 18 回 期末試験返却
- 第 19 回 再試験

#### 授業の方法

講義

#### 教材

教科書：Google Workspace 完全マニュアル[第 2 版]

参考書：①日本一詳しい Web 集客術「デジタル・マーケティング超入門」

②仕事で使える！Google サイト活用編 Web サイト & Google アナリティクス運用術

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

2024 年度

授業外での学習方法

—

実務経験と授業科目の関係

—



## アルゴリズム・データ構造 II

### 授業の目的・概要

SQL の基礎的な文法と考え方を理解し、「WebPerformer」で作成したアプリケーション内でデータベースを操作できるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	青島 弘和
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

### 目標

#### 前期

1. SQL を用いてデータベースを作成することができる。
2. SQL を用いてデータベースに検索をかけ、結果を取得することができる。
3. SQL を用いて 2 段階の集計を一度に実行することができる。
4. まとまった量の操作をビューとして保存し、簡潔な SQL 文を記述できる。
5. ORACLE MASTER Silver SQL 2019 の既習範囲について、5 割以上得点できる。

#### 後期

6. SQL を用いてデータベース内の複数のテーブルを結合することができる。
7. SQL におけるトランザクションの処理を理解し、データの整合性と安全性を確保することができる。
8. SQL を用いてユーザー権限を管理し、セキュリティ強化とデータ保護を図ることができる。
9. ORACLE MASTER Silver SQL 2019 の既習範囲について、8 割以上得点できる。
10. 「WebPerformer」上で、SQL 文を記述してデータベースの操作をアプリケーションに組み込むことができる。

### 授業計画

#### 前期

第1週 SQL とデータベースの基礎

SQL とは何か、データベースの概要、データベース管理システム (DBMS) の紹介

第2週 データベースの作成と基本操作

データベースの作成 (CREATE DATABASE)、テーブルの作成 (CREATE TABLE)、データ型

第3週 データの挿入、更新、削除

データの挿入 (INSERT)、データの更新 (UPDATE)、データの削除 (DELETE)

第4週 データの検索 (基本)

SELECT 文の基礎、WHERE 句による条件指定

第5週 データの検索 (応用)

複数の条件 (AND、OR)、ソート (ORDER BY)

第6週 複数のテーブルを使った検索

JOIN の基本 (INNER JOIN)、複数テーブルからのデータ取得

第7週 集約関数とグルーピング

集約関数 (SUM、AVG など)、GROUP BY 句の使用

第8週 サブクエリ

サブクエリの概念と基本的な使い方、サブクエリを使ったデータの抽出

第9週 ビュー

ビューの作成と利用、ビューの利点と制約

第10週 前期総復習

第11週 資格試験問題演習①

第12週 資格試験問題演習②

第13週 資格試験問題演習③

第14週 資格試験問題演習④

第15週 前期期末試験

第16週 前期期末試験返却・フィードバック

第17週 前期期末再試験

後期

第1週 高度な JOIN 操作

外部結合 (LEFT JOIN、RIGHT JOIN)

複数テーブルの結合

第2週 トランザクション管理

トランザクションの概念、COMMIT と ROLLBACK

第3週 インデックス

インデックスの概念と利用、インデックスの作成と削除

第4週 データベースのセキュリティ

ユーザーと権限の管理、セキュリティのベストプラクティス

第5週 ストアドプロシージャとトリガー

ストアドプロシージャの基本、トリガーの作成と利用

第6週 高度な SQL クエリ

ウィンドウ関数、一時テーブルと変数

第7週 後期総復習

第8週 資格試験問題演習①

第9週 資格試験問題演習②

第10週 資格試験問題演習③

第11週 資格試験問題演習④

第12週 WebPerformer 演習①

第13週 WebPerformer 演習②

第14週 WebPerformer 演習③

第15週 WebPerformer 演習④

第16週 WebPerformer 演習⑤

第17週 後期期末試験

第18週 後期期末試験返却・フィードバック

第19週 後期期末再試験

2024 年度

#### 授業の方法

講義、問題演習

#### 教材

中山清喬・飯田理恵子(2024)『スッキリわかる SQL 入門 第 4 版』インプレス

渡部 亮太、舩井 智行(2021)『オラクルマスター教科書 Silver SQL Oracle Database SQL』翔泳社

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

#### 授業外での学習方法

Web サービス「dokoQL」(<https://dokoql.jp/workspace>)を用いて実際にコードを入力してプログラムを実行し授業の内容を復習する。

#### 実務経験と授業科目の関係

複数のシステム開発企業にて、プログラミングを経験。

# プログラミング II

## 授業の目的・概要

- JavaScript の基本的な文法と機能について理解する。
- ローコード開発ツール「WebPerformer」を用いて簡単な Web アプリケーションを作成・運用できるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	大野 将之
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	98

## 目標

### 前期

- JavaScript により書かれたプログラムが実行されるまでの流れを理解できる。
- 基本的なコンピュータ上の計算を、JavaScript を用いて記述できる。
- ブラウザとテキストエディタを用いて単純な Web アプリケーションを作成することができる。

### 後期

- 「WebPerformer」上で、コンポーネントを配置し UI（アプリケーションの操作画面）を作成することができる。
- 「WebPerformer」上で、JavaScript を用いてログインや操作履歴の表示等の簡単な機能を実装できる。
- 設計・開発・テストの流れに沿って業務に使われることを想定した Web アプリケーションを作成することができる。

## 授業計画

### 前期

- 第 1 週 JavaScript 導入  
JavaScript とは何か、環境設定（ブラウザ、テキストエディタ）
- 第 2 週 基本文法

	変数 (var、let、const) 、基本的なデータ型 (数値、文字列、論理値)
第 3 週	演算子と制御構造 算術演算子、比較演算子、if 文による条件分岐
第 4 週	ループと反復処理 for ループ、while ループ、配列の基本とループ処理
第 5 週	関数 関数の定義と呼び出し、パラメータと戻り値
第 6 週	オブジェクト オブジェクトリテラル、プロパティとメソッド
第 7 週	配列の応用 配列のメソッド (push、pop、slice 等) 、forEach、map、filter 等の高階関数
第 8 週	DOM 操作の基本 HTML との連携、要素の選択と操作
第 9 週	イベントハンドリング イベントリスナーの追加、イベントオブジェクト
第 10 週	フォームと UI の操作 フォーム要素の取り扱い、UI 操作 (入力値の取得、表示の更新)
第 11 週	JavaScript でのエラー処理 try...catch 文、エラーオブジェクト
第 12 週	JavaScript での非同期処理 setTimeout、setInterval、非同期処理の基本的な概念
第 13 週	Web API の基本 Web API とは何か、簡単な API を使ったデータの取得
第 14 週	復習・演習 簡単なウェブアプリケーションの作成
第 15 週	前期期末試験
第 16 週	前期期末試験返却・フィードバック

第 17 週 前期期末再試験

後期（講師：キヤノン ITS 様）

第 1 週・第 2 週 オリエンテーション、課題提示

ローコード開発とは、WebPerformer について、機能と操作

第 3 週・第 4 週 要件定義とは／実践演習

第 5 週・第 6 週 基本設計とは／実践演習

第 7 週・第 8 週 詳細設計とは／実践演習

第 9 週・第 10 週 コーディング①

第 11 週・第 12 週 コーディング②

第 13 週・第 14 週 テスト手法について／実践演習

第 15 週 発表準備

第 16 週 発表

第 17 週 前期期末試験

第 18 週 前期期末試験返却・フィードバック

第 19 週 前期期末再試験

授業の方法

講義、問題演習、グループワーク

教材

狩野祐東(2019)『確かな力が身につく JavaScript「超」入門 第 2 版』SB クリエイティブ

WebPerformer-NX (<https://nx.webperformer.jp/base/apps/app-list>)

評価の方法

前期：試験 80%、授業態度 20%

授業態度点には Web アプリケーション作成演習の成果物への評価も含めるものとする。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

2024 年度

後期：試験 80%、授業態度 20%

授業態度点には Web アプリケーション作成演習の成果物への評価も含めるものとする。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

授業外での学習方法

Web サービス「paiza.io」(<https://paiza.io/ja/projects/new>)を用いて実際にコードを入力してプログラムを実行し授業の内容を復習する。

実務経験と授業科目の関係



## 情報ネットワーク

DX 人材として、ネットワーク方式や通信プロトコル、IP アドレス等の技能について、IT パスポート試験及び基本情報技術者試験に合格できるレベルの知識を身につける

科	DX ビジネス科	教員	見原 徹哉
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

### 目標

#### 前期

- ネットワークの種類とネットワーク機器の役割について理解し、IT パスポート試験の計算問題や選択問題を解けるようになる
- 通信プロトコルの種類とその違いについて理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる
- インターネットの仕組みについて、通信相手を特定するためのシステムやルールについて理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる
- 電子メールと Web を中心としたインターネットサービスの特徴と其中で用いられる主要な技術について理解し、IT パスポート試験の選択問題を解けるようになる

#### 後期

- 電子メールの設定を正しく行い、自身の使用するコンピュータでメールの送受信ができるようになる
- ネットワーク方式について、その動作原理を理解し、回線速度についての基本情報技術者試験レベルの計算問題や IP アドレスの仕組みに関する選択問題を解けるようになる
- ネットワークのデータ通信について、OSI 基本参照モデルを理解し、それぞれの階層についての基本情報技術者試験レベルの選択問題を解けるようになる
- ネットワークの通信プロトコルについて、その動作原理を理解し、基本情報技術者試験レベルの選択問題を解けるようになる

授業計画

前期

- 第 1 回 授業の導入、オリエンテーション、IT パスポート試験におけるネットワーク技術の位置づけ
- 第 2 回 ネットワークの構成要素 (LAN と WAN)
- 第 3 回 ネットワーク機器 (ルータ、ハブ、ケーブル、ゲートウェイ)
- 第 4 回 選択問題演習
- 第 5 回 無線 LAN① (Wi-Fi、アクセスポイント、チャンネル)
- 第 6 回 無線 LAN② (暗号化、MAC アドレスフィルタリング、選択問題演習)
- 第 7 回 通信プロトコル① (プロトコルとは、TCP/IP、HTTP)
- 第 8 回 通信プロトコル② (SMTP、POP 他、選択問題演習)
- 第 9 回 IP アドレス① (IP アドレスとは、MAC アドレスとの違い、サブネットマスク)
- 第 10 回 IP アドレス② (プライベートアドレスとグローバルアドレス、ドメイン名、DNS)
- 第 11 回 IP アドレス③ (IPv6 と枯渇問題、選択問題演習)
- 第 12 回 ブロードバンド、モバイル通信
- 第 13 回 伝送時間の計算
- 第 14 回 選択問題演習、計算問題演習
- 第 15 回 復習
- 第 16 回 期末テスト
- 第 17 回 再試験

後期

- 第 1 回 Web ページの検索、閲覧 (WWW、URL、Cookie)
- 第 2 回 電子メール① (アドレス構造、同報メール、web メール)
- 第 3 回 電子メール② (HTML 形式、選択問題演習)
- 第 4 回 基本情報技術者試験におけるネットワーク技術の位置づけ、ネットワーク方式、5G、モバイル通信
- 第 5 回 通信プロトコル (TCP と IP) OSI 基本参照モデル
- 第 6 回 通信プロトコル (ネットワーク層、アプリケーション層のプロトコル)、選択問題演習
- 第 7 回 ネットワーク接続機器、パケット、データ転送単位

2024 年度

第 8 回 リピータ、ブリッジとルータの仕組みの違い、ゲートウェイ

第 9 回 選択問題演習

第 10 回 IP アドレス ポート番号、NAT/NAPT、DHCP

第 11 回 IP アドレスのクラス 、選択問題演習

第 12 回 ネットワーク管理、SDN、OpenFlow

第 13 回 インターネットの応用、CGI、MIME、S/MIME

第 14 回 選択問題演習

第 15 回 回線に関する計算

第 16 回 計算問題演習

第 17 回 復習

第 18 回 期末テスト

第 19 回 再試験

#### 授業の方法

講義

#### 教材

教科書：令和 05 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室 (情報処理技術者試験)

参考書：令和 05 年【春期】【秋期】 応用情報技術者 合格教本 (情報処理技術者試験)、情報通信ネットワーク (ファーストステップ)

参考書：ネットワーク超入門講座 第 4 版 S Bクリエイティブ 三上信男

#### 評価の方法

試験 70%、授業態度 20%、課題 10%

授業態度については居眠り、授業と無関係なスマホの使用、参加への意欲が低い、教員の指示に従わない

2024 年度

等は減点の対象とする。

#### 授業外での学習方法

<https://www.itpassportsiken.com/ipkakomon.php>

<https://www.fe-siken.com/fekakomon.php>

前期は IT パスポート試験、後期は基本情報技術者試験の「過去問道場」を中心に活用し、授業内での問題演習以外でも、それぞれの回次で学習した範囲の問題演習を自主的に行い知識の定着を図る。

#### 実務経験と授業科目の関係

—

## ビジネスコミュニケーションⅡ

### 授業の目的

場面に応じた適切なコミュニケーション能力をつける。（①文法能力②社会的能力③談話能力④ストラテジー能力）。就職先で良好な人間関係を築くためのコミュニケーションができるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	石澤 司麻
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年生	年間単位時間	98

### 目標

#### 前期

1. 初級で学んだことを拡張し、応用することができる。
2. 教科書で提示された各課の目標（can-do）を達成する。
3. 7月の日本語能力試験 N2 に合格することができる。
4. わからない言葉があっても言い換えて説明でき、聞き返して確認することができる（ストラテジー能力）。

#### 後期

1. 文法や文型が内容、話題や場面に合わせて適切に使い分けることができる。
2. 教科書で提示された各課の目標（can-do）を達成する。
3. 実際に就職活動で丁寧語、尊敬語、謙譲語が問題なく使える。
4. 実際の仕事で役立つ日本語が運用できる。やり取りする相手との関係性やその場の状況を理解しその社会のルールに合わせてことばの使い分け、理解することができる。

### 授業計画

#### 前期

2024 年度

第 1 回	アイスブレイク、実際の目標、評価の提示
第 2 回～4 回	1 章スタッフ募集のお知らせ
第 5 回～7 回	2 章転任のあいさつ（1）
第 8 回～10 回	2 章転任のあいさつ（2）
第 11 回～13 回	3 章ホテルの仕事
第 14 回～16 回	4 章台風情報
第 17 回～20 回	JLPT 対策
第 21 回～23 回	5 章就職活動（1）
第 24 回～25 回	5 章就職活動（2）
第 26 回～27 回	6 章苦勞した 5 年間（1）
第 28 回	試験復習
第 29 回～30 回	試験
第 31 回～32 回	試験返却
第 33 回～34 回	再試験

後期

第 1 回	アイスブレイク、実際の目標、評価の提示
第 2 回～4 回	6 章苦勞した 5 年間（2）
第 5 回～7 回	7 章オオカミの生態系（1）
第 8 回～10 回	7 章オオカミの生態系（2）
第 11 回～13 回	8 章取引先で
第 14 回～16 回	9 章食べ放題（1）
第 17 回～19 回	9 章食べ放題（2）
第 20 回～23 回	JLPT 対策
第 24 回～26 回	10 章満員電車（1）
第 27 回～29 回	10 章満員電車（2）

2024 年度

第 30 回～32 回	試験復習
第 33 回～34 回	試験
第 35 回～36 回	試験返却
第 37 回～38 回	再試験

#### 授業の方法

講義、演習

#### 教材

星野恵 ABK 公益財団法人アジア学生文化会館（2015 年）『TRY！日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語』アスク出版

使用機材：プロジェクター

#### 評価の方法

期末試験 80%（到達度評価／客観テスト／再認形式）、課題点 10%、授業態度 10%

授業態度は、発問に対する反応や練習問題への取り組みを総合的に評価する。居眠り、ゲーム SNS 等授業と無関係なスマホ使用は減点の対象となる。

#### 授業外での学習方法

教科書（練習問題やってみよう！・まとめ問題）

#### 実務経験と授業科目の関係

## 資格対策講座 I

### 授業の目的

- ・ IT パスポート試験合格
- ・ IT の基礎知識を体系的に身につけ、日本企業に就職した後、顧客、社内の情報システム部門、IT 企業との円滑なコミュニケーションが行えるようになる。

科	DX ビジネス科	教員	大島 静流
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

### 目標

#### 前期

ハードウェア、ソフトウェア、システム構成、ネットワーク、セキュリティの知識を身につける

#### 後期

データベース、アルゴリズムとプログラミング、マネジメント、企業活動と法務、経営戦略とシステム戦略の知識を身につける

### 授業計画

#### 前期

第 1 回 ハードウェア [テクノロジ系] ①

第 2 回 ハードウェア [テクノロジ系] ②

第 3 回 ハードウェア [テクノロジ系] ③

第 4 回 ソフトウェア [テクノロジ系] ①

第 5 回 ソフトウェア [テクノロジ系] ②



第 6 回 ソフトウェア [テクノロジ系] ③

第 7 回 システム構成 [テクノロジ系] ①

第 8 回 システム構成 [テクノロジ系] ②

第 9 回 システム構成 [テクノロジ系] ③

第 10 回 ネットワーク [テクノロジ系] ①

第 11 回 ネットワーク [テクノロジ系] ②

第 12 回 セキュリティ [テクノロジ系] ①

第 13 回 セキュリティ [テクノロジ系] ②

第 14 回 試験対策

第 15 回 試験

第 16 回 試験返却

第 17 回 再試験

後期

第 1 回 データベース [テクノロジ系] ①

第 2 回 データベース [テクノロジ系] ②

第 3 回 データベース [テクノロジ系] ③

第 4 回 アルゴリズムとプログラミング [テクノロジ系] ①

第 5 回 アルゴリズムとプログラミング [テクノロジ系] ②

第 6 回 アルゴリズムとプログラミング [テクノロジ系] ③

第 7 回 マネジメント [マネジメント系] ①

第 8 回 マネジメント [マネジメント系] ②

第 9 回 マネジメント [マネジメント系] ③

第 10 回 企業活動と法務 [ストラテジ系] ①

第 11 回 企業活動と法務 [ストラテジ系] ②

第 12 回 企業活動と法務 [ストラテジ系] ③

第 13 回 経営戦略とシステム戦略 [ストラテジ系] ①

第 14 回 経営戦略とシステム戦略 [ストラテジ系] ②

2024 年度

第 15 回 経営戦略とシステム戦略 [ストラテジ系] ③

第 16 回 試験対策

第 17 回 試験

第 18 回 試験返却

第 19 回 再試験

#### 授業の方法

講義、演習

#### 教材

栢木 厚 (2023) 「令和 06 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる かやのき先生の IT パスポート教室」

技術評論社

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業点 20%

授業態度の評価は、学生規則の中の、授業態度に関するルールを基に行う

#### 授業外での学習方法

- ・ Google フォームで自社作成した問題集の活用
- ・ 教科書を用いた自習

#### 実務経験と授業科目の関係

# キャリアデザイン

## 授業の目的

企業からの内定を獲得するために必要な就職活動に関する技術を身に着けること

科	DX ビジネス科	教員	赤星 和磨
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

## 目標

### 前期

- 「働く意義・目的」を理解し、「社会の一員となり、社会の役割の一端を担う」ことを理解する
- 自分がどういうところで働きたいか考察し、言語化できるようになる
- 自己理解を深め、卒業後のキャリアデザインを描くことができるようになる
- 就職活動を行う上で必要な自己分析を行うことができるようになる

### 後期

- 就職活動への円滑な移行ができる「リテラシー」を理解する
- 就職活動への主体的な行動を起こせる「コンピテンシー」を理解する
- 卒業後の進路のために、いつ、何をすればよいか計画性を身につける
- 15 回の授業後、履歴書を作成する技能を身に付ける

## 授業計画

### 前期

- |       |                           |
|-------|---------------------------|
| 第 1 回 | introduction キャリアデザインの必要性 |
| 第 2 回 | 仕事の価値観とライフスタイルの明確化        |
| 第 3 回 | 働き方にはどんな種類があるのか           |
| 第 4 回 | 世の中にはどんな仕事があるのか(業種・職種を知る) |

第 5 回	日本社会での就職活動の進め方
第 6 回	就職活動において必要なことを理解する
第 7 回	社会で必要とされる IT リテラシー①
第 8 回	社会で必要とされる IT リテラシー②
第 9 回	社会で必要とされる IT リテラシー③
第 10 回	社会で求められる人材について
第 11 回	自己分析① 自己分析は何のために行うのか
第 12 回	自己分析② 自己分析と就職活動の戦略
第 13 回	自己分析③ 自己分析と自己 PR
第 14 回	志望動機 志望動機作成の理論・実践
第 15 回	前期試験
第 16 回	前期試験フィードバック
第 17 回	前期再試験
後期	
第 1 回	introduction 前期の復習と後期の進め方
第 2 回	就職活動を行うにあたって意識すべきこと
第 3 回	進路選択の手法とエントリーシートの書き方
第 4 回	履歴書① 履歴書の重要性
第 5 回	履歴書② 面接で好印象な自己紹介
第 6 回	履歴書③ 自分の長所・短所を知る
第 7 回	履歴書④ 職種ごとの自己 PR を学ぶ
第 8 回	面接練習① 面接の種類とマナー
第 9 回	面接練習② 面接実践
第 10 回	面接練習③ グループディスカッション実践Ⅰ
第 11 回	面接練習④ グループディスカッション実践Ⅱ
第 12 回	就職基礎能力の開発Ⅰ (SPI 試験対策①)
第 13 回	就職基礎能力の開発Ⅱ (SPI 試験対策②)

2024 年度

第 14 回	就職基礎能力の開発Ⅲ	(SPI 試験対策③)
第 15 回	就職基礎能力の開発Ⅳ	(SPI 試験対策④)
第 16 回	後期のまとめ	
第 17 回	後期試験	
第 18 回	後期試験フィードバック	
第 19 回	後期再試験	

#### 授業の方法

授業計画に従って、講義形式又はグループディスカッション、グループワークを行う。

グループワークではアクティブラーニングの一種である「チーム基盤型学習 Team-based-learning」を行う。

#### 教材

主教材：なし

副教材：

村山昇(2018)「働き方の哲学 360 度の視点で仕事を考える」ディスカヴァー・トゥエンティワン

坪谷邦生(2020)「図解 人材マネジメント 入門 人事の基礎をゼロからおさえておきたい人のための「理論と実践」100 のツボ」ディスカヴァー・トゥエンティワン

岡 茂信(2020)「マイナビ 2022 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 自己分析 適職へ導く書き込み式ワークシート (マイナビオフィシャル就活 BOOK)」マイナビ出版

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%。

授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等を含み評価する。

#### 授業外での学習方法

復習：毎回授業の後は、どのような事を学んだのか振り返り、最終的に自分の言葉で人に説明できるようになる。

2024 年度

予習：ニュースから社会情勢を積極的に予習し、自己のキャリアビジョンに基づき、就職環境の理解に努めること。

#### 実務経験と授業科目の関係

学校法人にて学生の履歴書添削や、キャリアチームとして企業へのアプローチ、学生と企業のマッチング、企業説明会・面接の開催・運営等に従事。

## ビジネスリーディングⅡ

### 授業の目的

日本語能力試験（JLPT）N2 合格のための読解力を身につける。ビジネス文書やメールの内容を理解するための表現や語彙を学ぶ。

科	DX ビジネス科	教員	知久剛
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

### 目標

1 年次に学習したリーディングのストラテジーを実践し文章の重要な部分を特定できる。  
幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、評論などの内容を読みとることができる。  
ビジネスで使う表現や語彙を理解し、ビジネスメールを読みとることができる。

### 授業計画

#### 前期

第 1 回	オリエンテーション・評価方法・自主学習について
第 2 回	いろいろな文書とキーワード
第 3 回	短文 4,5,6
第 4 回	短文 10,11,12
第 5 回	短文 16,17,18
第 6 回	JLPT 対策
第 7 回	JLPT 対策
第 8 回	JLPT 対策
第 9 回	JLPT 対策
第 10 回	JLPT 対策

2024 年度

第 11 回	中文 1,2
第 12 回	中文 5,6
第 13 回	中文 9,10
第 14 回	中文 13,14
第 15 回	期末試験対策
第 16 回	前期期末試験返却・フィードバック (1)
第 17 回	前期期末再試験

後期

第 1 回	オリエンテーション・評価方法・自主学習について
第 2 回	長文 3,4
第 3 回	長文 7,8
第 4 回	長文 11,12
第 5 回	JLPT 対策
第 6 回	JLPT 対策
第 7 回	JLPT 対策
第 8 回	JLPT 対策
第 9 回	JLPT 対策
第 10 回	情報検索 3,4
第 11 回	情報検索 7,8
第 12 回	情報検索 11,12
第 13 回	情報検索 15
第 14 回	ビジネスメール
第 15 回	ビジネスメール
第 16 回	期末試験対策
第 17 回	後期期末本試験
第 18 回	後期期末試験返却・フィードバック (1)



2024 年度

第 19 回 後期期末再試験

#### 授業の方法

教室での対面授業

#### 教材

##### 主教材

小林ひとみ・桑原里奈（2011）『日本語能力試験問題集 N2 読解スピードマスター』 J リサーチ出版

##### 副教材

星野恵子・辻和子（2010）『ドリル&ドリル N2 聴解読解』 UNICOM

奥村真紀・安河内貴子（2007）『日本語ビジネス文書マニュアル』 アスク出版

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%

授業態度は、授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等、発問に対する反応や、練習問題への取り組みを総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

JLPT 対策等、自分の能力にあった自主学習

#### 実務経験と授業科目の関係

## 資格対策講座 II（ビジネスリーディング）

### 授業の目的

日本語能力試験（JLPT）N2 合格のための読解力を身につける。ビジネス文書やメールの内容を理解するための表現や語彙を学ぶ。

科	DX ビジネス科	教員	知久剛
コース	DX・IT マネジメントコース	教員の実務経験	×
対象年次	2 年次	年間単位時間	49

### 目標

1 年次に学習したリーディングのストラテジーを実践し文章の重要な部分を特定できる。  
幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、評論などの内容を読みとることができる。  
ビジネスで使う表現や語彙を理解し、ビジネスメールを読みとることができる。

### 授業計画

#### 前期

第 1 回	いろいろな文書とキーワード
第 2 回	短文 1、2、3
第 3 回	短文 7、8、9
第 4 回	短文 13,14,15
第 5 回	短文 19,20
第 6 回	JLPT 対策
第 7 回	JLPT 対策
第 8 回	JLPT 対策
第 9 回	JLPT 対策
第 10 回	JLPT 対策

2024 年度

第 11 回	中文 3,4
第 12 回	中文 7,8
第 13 回	中文 11,12
第 14 回	期末試験対策
第 15 回	前期期末本試験
第 16 回	前期期末試験返却・フィードバック (2)
第 17 回	前期期末再試験

後期

第 1 回	長文 1,2
第 2 回	長文 5,6
第 3 回	長文 9,10
第 4 回	JLPT 対策
第 5 回	JLPT 対策
第 6 回	JLPT 対策
第 7 回	JLPT 対策
第 8 回	JLPT 対策
第 9 回	情報検索 1,2
第 10 回	情報検索 5,6
第 11 回	情報検索 9,10
第 12 回	情報検索 13,14
第 13 回	ビジネスメール
第 14 回	ビジネスメール
第 15 回	期末試験対策
第 16 回	期末試験対策

2024 年度

第 17 回	後期期末本試験
第 18 回	後期期末試験返却・フィードバック (2)
第 19 回	後期期末再試験

#### 授業の方法

教室での対面授業

#### 教材

##### 主教材

小林ひとみ・桑原里奈 (2011) 『日本語能力試験問題集 N2 読解スピードマスター』 Jリサーチ出版

##### 副教材

星野恵子・辻和子 (2010) 『ドリル&ドリル N2 聴解読解』 UNICOM

奥村真紀・安河内貴子 (2007) 『日本語ビジネス文書マニュアル』 アスク出版

#### 評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%

授業態度は、授業態度は、取り組む姿勢や出席状況等、発問に対する反応や、練習問題への取り組みを総合的に評価する。

#### 授業外での学習方法

JLPT 対策等、自分の能力にあった自主学習

#### 実務経験と授業科目の関係